

幼児教育学科

2年

科目名：児童家庭福祉Ⅱ				担当教員氏名：杉原 哲心		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	保育士資格指定科目(選択)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
児童や家庭を取り巻く諸問題について、その現状や背景や課題の理解を深めるとともに、制度・施策の仕組みや適切な援助について考察する。						養育支援、地域社会、機関連携、専門性、福祉施策
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 8. 10	
A 知識・理解力			児童に関する事象について、関連する制度や施策を体系的に理解する。			
C 論理的思考力			具体事例について、知識や情報を理論だてて整理し、思考する力を培う。			
D 問題解決力			問題や課題に対し、情報を整理し、仮説を立て、課題解決アプローチの力をつける。			
F チームワーク・リーダーシップ			他者と協調して、また意見を取り入れたり自己の考えを伝える交流の力を高める。			
G 倫理観			保育者としての福祉マインドの形成を図り、社会規範の重要性を学ぶ。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 30 %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: 40 %		
特記事項:授業は、授業計画のテーマに沿いながらも、児童福祉に関する事例や出来事を取り上げて進めていくもの。発表30%は、授業の中で自己の考えをまとめて述べるができるかを見るもの。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:7講目、14講目にテスト・レポートを実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:						
授業計画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション、児童福祉行政機関の役割と相互連携(福祉事務所など地域密着)				社会福祉事務所の設置と役割を調べておく		
②児童福祉行政機関の役割と相互連携(児童相談所)				児童相談所の役割や機能を調べる		
③児童福祉行政機関の役割と相互連携(社会福祉協議会などその他の福祉機関)				社会福祉協議会の機能と組織を調べる		
④児童福祉施設と福祉サービス				児童福祉施設の種別を知る		
⑤児童の発達と保健				発達の特徴を知る		
⑥要養護問題と社会支援				養護の発生原因や背景を考察する		
⑦振り返り						
⑧少年非行問題、情緒障害児について				テキスト(非行について)を読んでおく		
⑨母子家庭、ひとり親家庭				ひとり親制度を調べておく		
⑩児童虐待問題				虐待ケースについて事前に調べる		
⑪児童家庭福祉の実践と福祉従事者				保育士がかかわる職種を考える		
⑫児童家庭福祉の専門援助技術				専門援助について具体内容を考えておく		
児童福祉サービス援助機関との連携				援助機関を調べておく		
⑬振り返り						
⑭まとめ、児童家庭福祉サービスの今後の課題						
使用テキスト: <1年次に購入済み> ・改訂4版・保育士養成講座第3巻「児童家庭福祉」(全国社会福祉協議会)				その他参考文献など: ・社会福祉小六法(中央法規)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 児童にかかわる出来事や番組に日ごろから関心をもってもらいたい。						

幼児教育学科

2年

科目名：社会的養護				担当教員 氏名：杉原 哲心		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	2年次	前期	専門科目	講義	選択	保育士資格指定科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
社会情勢が大きく変わる中で、子どもとその家庭を取り巻く環境も変化してきている。社会養護の役割の重要性も強く求められている。養護にかかる児童福祉の基本的な視点を学び、専門職員の役割のあり方を考察する。						相談機関、命、防止、保障、施設、親子
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 8. 10	
A 知識・理解力		養護についての基本的な知識や背景を理解し、要養護の支援体系を理解する。				
C 論理的思考力		児童養護問題の整理と対策等について、整理された考え方を身につける。				
E 自己管理能力		授業に対し、適切な学究姿勢や真摯に取り組む態度を身につける。				
G 倫理観		児童福祉についての倫理観を育て、社会規範を培う。				
H コミュニケーション力		他の者と協調しながらも、意見を聞き、自分の考えを的確に伝えることができる力を身につける。				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 30 %	レポート： 30 %	発表： %	実技試験： %	その他： 40 %		
特記事項：テストは理解度を、レポートは自分の考えをまとめて表現する、その他は授業態度や取り組み姿勢により採点する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：テスト・レポートは、7講目、14講目に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション、児童福祉と児童養護について				児童がおかれている現況や社会情勢を考える		
②子どもを取り巻く社会の現状、家庭養護と社会養護				家庭の役割や機能について考える		
③子どもの権利擁護、子育て支援とは				年表で児童家庭福祉の歴史的流れを調べる		
④児童養護の歴史、施設の沿革と福祉理念				県内の児童福祉施設を調べる		
⑤施設養護の体系と分類、富山県の児童施設				施設の生活を調べ、理解する		
⑥施設養護の現状(入所から退所まで)				レポート および 振り返り		
⑦レポート および 振り返り				家庭的養護の意義と役割を考える		
⑧家庭的養護の制度と現状(里親制度、養子縁組)				里親制度の現状と課題、活動の実際を把握する		
⑨家庭的養護の実際と課題、富山県の里親制度と里親活動				施設における職種とその役割を調べておく		
⑩職員の資質と専門性、組織とチームワーク				運営組織や経費運用について事前学習		
⑪児童福祉施設の運営				関係機関と施設の役割分担について考えをまとめておく		
⑫児童養護の機関連携、児童相談所の役割				社会的養護の機能について考えをまとめる		
⑬地域社会との連携				レポート および 振り返り		
⑭レポート および 振り返り				まとめ、これからの児童養護の方向		
⑮まとめ、これからの児童養護の方向						
使用テキスト：「社会的養護の原理」櫻井奈津子編著 青踏社				その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 児童養護についての基本的考え方と社会養護に重要性、児童の人権保障の大切さを、社会事象や事例を通して認識する						

幼児教育学科

2年

科目名: 教師論				担当教員氏名: 轟本 千種		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門科目	講義	必修	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要: 教育目標である、「私」を「つくり、つくりかえ、つくる」ということについての理解を保育の現場における教師・保育者の姿や事例などの考察をとおして深めつつ、教職の意義及び教師・保育者の役割について理解する。また、仲間と共に成長できる教師・保育者のあり方、教師・保育者の職務内容について学ぶ。					キーワード ・成長を目指す教師・保育者 ・教職の意義 ・教師・保育者の役割 ・職務内容	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6.		
A 知識・理解力		今日の社会に求められる教師・保育者の使命や在り方を理解する。				
C 論理的思考力		幼稚園、保育所、児童福祉施設での保育者の仕事の共通点と相違点、家庭との連携について考える力を身につける。				
D 問題解決力		様々な方法による自己表現を積み重ね、今日求められる教師・保育者のあり方について考える。				
E 自己管理能力		保育者の社会的責任・役割を理解し、求められる保育者像に向かう「私」づくりを継続する。				
G 倫理観		保育現場で求められる教師・保育者としての倫理観について身につける。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	70 %	発表:	%	実技試験: %
				その他: 30 %		
特記事項: 特記事項: 上記の「その他:30%」の部分では、授業での参加姿勢・態度を評価する。本科目はアクティブ・ラーニングの一環として、第7回で、1年生が取り組むクリスマス会の準備の学びに参加し、各自担当の1年生時の学びを伝え、現1年生と共に学ぶことに取り組む。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: ・毎時間のミニレポート、及び第7回、第14回の授業でレポート課題を課す。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: レポートは評価終了後返却し、その後の学び方の改善やさらに学びを深めるために活かすよう指導する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①「保育者」への扉をあげよう				【事前】これまでの実習での指導を振り返る。 【事後】①での学びと資料をもとにしたミニレポート作成		
②保育者の仕事と役割				【事前】①の復習 【事後】②での学びと資料をもとにしたミニレポート作成		
③保育者になるための学び				【事前】②の復習 【事後】③での学びと資料をもとにしたミニレポート作成		
④保育者に求められる資質とは				【事前】③の復習 【事後】④での学びと資料をもとにしたミニレポート作成		
⑤職場で学びあう専門家として				【事前】④の復習 【事後】⑤での学びと資料をもとにしたミニレポート作成		
⑥子どもの育ちの危機と子育て支援(子どもの育ちが危ない、「子育て支援」と保育者の役割)				【事前】⑤の復習 【事後】⑥での学びと資料をもとにしたレポート作成		
⑦子どもの育ちの危機と子育て支援(「子育て支援」を考える視点)				【事前】⑥の復習 【事後】⑦での学びと資料をもとにしたミニレポート作成		
⑧現代社会の変化と「保育者」の仕事や課題(多様化する課題～異文化理解)				【事前】⑦の復習 【事後】⑧での学びと資料をもとにしたミニレポート作成		
⑨現代社会の変化と「保育者」の仕事や課題(「男女共同参画」理念～期待されるもの)				【事前】⑧の復習 【事後】⑨での学びと資料をもとにしたミニレポート作成		
⑩保育者の職務と生活				【事前】⑨の復習 【事後】⑩での学びと資料をもとにしたミニレポート作成		
⑪日本の保育者のあゆみ(日本近代の幕開け～保育の発展と保育者)				【事前】⑩の復習 【事後】⑪での学びと資料をもとにしたミニレポート作成		
⑫日本の保育者のあゆみ(厳しい時代のなかで、戦後の保育者)				【事前】⑪の復習 【事後】⑫での学びと資料をもとにしたミニレポート作成		
⑬資料にみる保育者の姿(戦後保育のあゆみ、保育者の実態)				【事前】⑫の復習 【事後】⑬での学びと資料をもとにしたミニレポート作成		
⑭資料にみる保育者の姿(諸外国の保育者、保育者の専門性とライフコース)				【事前】⑬の復習 【事後】⑭での学びと資料をもとにしたレポート作成		
⑮保育者になる人へのメッセージ				【事前】⑭の復習 【事後】⑮での学びと資料をもとにしたミニレポート作成		
使用テキスト: 使用しない				その他参考文献など: 「新人保育者物語 さくら」小学館 「倉橋惣三文庫⑩ 倉橋惣三と現代保育」フレーベル館		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ■保育実習及び幼稚園実習で指導を受けた保育士・教諭の姿から学んだことや自分自身が幼稚園・保育所から高校まで受けてきた教育や先生方の姿を振り返りながら、主体的に授業に参加してほしい。 ■授業で配布した資料を教科書替わりとする。自己学修に使用するので必ずファイルに綴ること。						

幼児教育学科

2年

科目名: 教育心理学				担当教員氏名: 石津 孝治		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門科目	講義	選択必修 11単位中 6単位以上	幼稚園教諭二種免許状科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
学習や発達などの教育心理学の基礎的事項について学んだ後、カウンセリングマインドに基づく教育や障害児の理解、療育について学ぶ。さらに、現場で直面する事柄などの実際的なテーマを取り上げ、理解を深める予定である。					・学習 ・発達 ・カウンセリングマインド	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 9.		
A 知識・理解力		教育の心理学的基礎の知識を習得する				
C 論理的思考力		カウンセリングマインドの考え方と現場の応用について自分なりにイメージできる				
D 問題解決力		様々な情報から子どもの状態像を統合できる				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 70 %	レポート: 30 %	発表: %	実技試験: %	その他: %		
特記事項: アクティブラーニングの一環として、実際の事例を用い、その事例の理解、援助課程の理解をレポートとしてまとめる時間をもつ。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 3~5回目の授業は、毎回レポートを作成し、評価する。15回目はまとめと試験を実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: テストを採点し返却。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①学習に関する基本的事項について学ぶ。(学習の過程、学習の理論・効果的学習の条件)				[事後]①の復習		
②知能に関する基本的事項について学ぶ。(知能の定義・知能の発達・知能検査の意義と限界)				[事後]②の復習		
③カウンセリングマインドについて学ぶ。(1)(母親の相談事例を読み、対応を考える)				[事後]③の復習		
④カウンセリングマインドについて学ぶ。(2)(母親の相談事例全体を読み、再度考察する)				[事後]④の復習		
⑤カウンセリングマインドについて学ぶ。(3)(子どもの事例全体を読み、再度考察する)				[事後]⑤の復習		
⑥絵本と子どもの心。「かいじゅうたちのいるところ」などを読む。				[事後]⑥の復習		
⑦児童期の発達、特に認知発達と人間関係について学ぶ。				[事前]①から⑥の復習 [事後]⑦の復習		
⑧思春期の発達、特に自己の発達と人間関係について学ぶ。				[事後]⑧の復習		
⑨青年期の発達に関する基本的事項について学ぶ。(大人になること・同一性形成)				[事後]⑨の復習		
⑩発達障害の認知発達、内面の感覚について学ぶ。				[事後]⑩の復習		
⑪幼児期の人間関係と保育者の支援について学ぶ。また、発達障害の支援について学ぶ。				[事後]⑪の復習		
⑫園におけるいじめと不登園などについて学ぶ				[事後]⑫の復習		
⑬園におけるカウンセリングマインドの応用例事例1				[事後]⑬の復習		
⑭園におけるカウンセリングマインドの応用例事例2				[事後]講義内容全体の復習		
⑮全体のまとめ						
使用テキスト:				その他参考文献など: 「保育に生かす教育心理学」伊藤健次編(みらい)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

幼児教育学科

2 年

科目名: 子どもの食と栄養 I					担当教員 氏名: 藤本 孝子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択		備考
1	2年次 前期	専門科目	演習	選択必修 11単位中 6単位以上		保育士資格指定科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
本授業では、栄養の基礎知識を学ぶとともに、小児の身体の発育・心の発達における食生活の役割を理解する。						小児栄養、食生活、健康
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 8. 9.	
A 知識・理解力			栄養学の基礎知識を理解する。			
B 専門的技術			小児の発育・発達の各過程における栄養と食生活の特徴を理解する。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項:						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 採点后返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①子どもの健康と食生活				【事後】①の復習		
②栄養の基本的概念				【事後】②の復習		
③栄養素の種類と機能 ・炭水化物				【事後】③の復習		
④栄養素の種類と機能 ・脂質				【事後】④の復習		
⑤栄養素の種類と機能 ・タンパク質				【事後】⑤の復習		
⑥栄養素の種類と機能 ・ミネラル・ビタミン				【事後】⑥の復習		
⑦食べ物の消化と吸収				【事後】⑦の復習		
⑧食の安全性				【事後】⑧の復習		
⑨子どもの発育・発達の基本				【事後】⑨の復習		
⑩胎児期(妊娠期) ・母体の変化と胎児の発育				【事後】⑩の復習		
⑪胎児期(妊娠期) ・食生活について				【事後】⑪の復習		
⑫乳児期 ・乳汁栄養について				【事後】⑫の復習		
⑬乳児期 ・離乳の必要性				【事後】⑬の復習		
⑭乳児期 ・離乳の進め方				【事後】⑭の復習		
⑮まとめ ・試験				【事前】子どもの食と栄養I全体の復習		
使用テキスト: 最新子どもの食と栄養, 飯塚美和子ら編集, 学建書院				その他参考文献など: やさしく学べる子どもの食 一授乳・離乳から思春期まで一 堤ちはる・平岩幹男, 診断と治療社		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

幼児教育学科

2年

科目名：子どもの食と栄養Ⅱ					担当教員氏名：藤本 孝子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
1	2年次 後期	専門科目	演習	選択必修 11単位中 6単位以上	保育士資格指定科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
本授業では、栄養の基礎知識を学ぶとともに、小児の身体の発育・心の発達における食生活の役割を考え、実践する能力を養う。					小児栄養、食生活、健康	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 8. 9.	
B 専門的技術		小児の発育・発達の各過程における栄養と食生活の特徴を理解する。				
D 問題解決力		小児期の栄養・食生活の問題点と対策を主体的に考えることができる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項:						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 採点后返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①献立の作成について				9月1日	【事後】①の復習	
②調理実習時の衛生管理				9月1日	【事後】②の復習	
③離乳食(調理実習含む)① 離乳食の実際				9月8日	【事後】③の復習	
④離乳食(調理実習含む)② 離乳食調理				9月8日	【事後】④の復習	
⑤幼児の食事(調理実習含む)① 献立と調理				9月14日	【事後】⑤の復習	
⑥幼児の食事(調理実習含む)② 調理				9月14日	【事後】⑥の復習	
⑦間食について(調理実習含む)① 間食の意義と実際				9月22日	【事後】⑦の復習	
⑧間食について(調理実習含む)② 間食づくり				9月22日	【事後】⑧の復習	
⑨お弁当について				10月20日	【事後】⑨の復習	
⑩子どもを取り巻く生活環境				10月20日	【事後】⑩の復習	
⑪幼児期・学童期・思春期の特徴と食生活				10月27日	【事後】⑪の復習	
⑫幼児期・学童期・思春期の食生活の問題点				10月27日	【事後】⑫の復習	
⑬食育の基本と内容				11月10日	【事後】⑬の復習	
⑭食育の実際				11月10日	【事後】⑭の復習	
⑮まとめ・試験				12月1日	【事前】子どもの食と栄養Ⅱ全体の復習	
使用テキスト: 最新子どもの食と栄養, 飯塚美和子ら編集, 学建書院				その他参考文献など: やさしく学べる子どもの食 —授乳・離乳から思春期まで— 堤ちはる・平岩幹男, 診断と治療社		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

幼児教育学科

2年

科目名： 家庭支援論				担当教員 氏名： 江藤 裕子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門科目	講義	選択必修 11単位中 6単位以上	保育士資格指定科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
現在の家族を取り巻く社会環境における家庭生活、その人間関係のあり方を理解し、家庭支援・子育て支援について理解を深める。それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援対策を提供するため、児童福祉の基礎となる家族の福祉を図るための様々な援助活動及び関係機関との連携について理解を深める。					<ul style="list-style-type: none"> ・家庭 ・社会的状況 ・支援体制 ・社会資源 ・連携方法 	
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 9	
A 知識・理解力			家庭の意義とその機能について理解する。			
A 知識・理解力			子育て家庭を取り巻く社会的状況や問題等について理解する。			
B 専門的技術			子育て家庭の支援体制について理解する。			
D 問題解決力			子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 50 %		発表: %	実技試験: %	その他: %
特記事項: 授業終了時に適宜振り返りシートを配布し、記入後に回収し、その全体的なものをもってレポートとし、評価を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 提出物を適宜、筆記テストは第15回。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 提出物の意見をクラス全体で集約して配布。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【子育てと家族・家庭】 家族の意味、家庭の形態				事後: 自身の家族観を振り返る		
②【家族・家庭の動向と現状】 家族の形態の変化・都市化の理解				事前: 教科書P11~13を読む		
③【子育てをめぐる問題】 子育て家庭をとりまく社会環境の変化・少子化の理解				事前: 教科書P14~15を読む		
④【子育てをめぐる問題】 子育て困難のさまざま・貧困化の理解				事前: P31~「貧困化」を読む		
⑤【子育てをめぐる問題】 子育て困難のさまざま・情報化の理解				事後: 家族概念の変化の振り返り		
⑥【子育て家庭支援の政策動向と展望】 子育て家庭を支援する制度(国際比較)				事前: P30~「高学歴化」を読む		
⑦【子育て家庭支援のあり方】 家庭支援の目的と役割				事後: 父性母性理解の振り返り		
⑧【子育て家庭支援のあり方】 援助の実際 参考:「親教育プログラム」				前: P38~「子育て負担感」を読む		
⑨【子育て家庭支援のあり方】 援助の実際 乳幼児親子との交流				事後: 母親たちの意見を振り返る		
⑩【子育て家庭支援のあり方】 援助の実際 参考: 富山県内子育て支援メニュー				事前: P52「制度の現状」の理解		
⑪【特別なニーズを持つ家族と援助】 DVの背景の理解 デートDVワークから				事後: 自身の体験を振り返る		
⑫【特別なニーズを持つ家族と援助】 虐待とDV 参考:「子ども虐待としてのDV」				事前: P107~113を読む		
⑬【特別なニーズを持つ家族と援助】 子ども虐待防止プログラム				事後: 自身の体験を振り返る		
⑭【特別なニーズを持つ家族と援助】 里親制度の理解				事後: 自身の体験を振り返る		
⑮【子育て支援サービスの課題 社会がもつめる家庭支援の全体像を理解する】 テスト						
使用テキスト: 『実践 家庭支援論』 松本園子・他著 ななみ書房				参考文献など: 『親教育プログラムのすすめ方』 ひとなる書房 『子ども虐待としてのDV』 星和書店		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 支援の方法、技術をより確実に理解するために、体験型ワークショップを多く取り入れていきます。						

幼児教育学科

2年

科目名：教育相談				担当教員氏名：草野 香苗		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門科目	講義	選択	保育士資格指定科目(選択) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
保育現場において、子どもの多様な問題に対応するために、子どもの発達について理解し、相談に応じるためのカウンセリングの理論や技法を身につける。					・教育相談 ・カウンセリング ・子どもの発達 ・親の発達 ・保育者のメンタルヘルス	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 9	
A 知識・理解力		子どもの発達についての知識を身につける				
B 専門的技術		保育者に必要なカウンセリング理論を理解し、技法を身につける				
D 問題解決力		教育相談における各々の理解と援助の方法がイメージできる				
E 自己管理能力		保育者としてメンタルヘルスを保つことの重要性を理解し行動することができる				
H コミュニケーション力		子どもや保護者と信頼関係をつくることのできる				
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト：80 %	レポート： %	発表： %	実技試験： %	その他：20 %		
特記事項：「テスト①」「テスト②」は、それぞれ40%ずつ。「その他」は、出席状況や受講態度。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：第7回、第15回。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：適宜レポートを課し、採点し返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①保育者による教育相談とは				【事後】①の復習		
②子どもの発達の理解1(0~1歳児)				【事後】②の復習		
③子どもの発達の理解2(2~3歳児)				【事後】③の復習		
④子どもの発達の理解3(4~5歳児)				【事後】④の復習		
⑤子どもの心の問題について理解する				【事後】⑤の復習		
⑥親としての発達を理解する				【事後】⑥の復習		
⑦発達に関するまとめ				【事前】発達段階の復習 【事後】⑦の復習		
⑧カウンセリングの理論				【事後】⑧の復習		
⑨カウンセリングの技法				【事後】⑨の復習		
⑩教育相談における相談事例(子どもの事例)				【事後】⑩の復習		
⑪教育相談における相談事例(母親の事例)				【事後】⑪の復習		
⑫保育の枠組みにおける教育相談(子どもの事例)				【事後】⑫の復習		
⑬保育の枠組みにおける教育相談(母親の事例)				【事後】⑬の復習		
⑭外部機関との連携・保育者のメンタルヘルス				【事後】⑭の復習		
⑮まとめ				【事前】教育相談全体の復習		
使用テキスト： 『子どもの理解と保育・教育相談』小田豊・秋田喜代美 編				その他参考文献など：『プロカウンセラーの 聞く技術』(東山紘久著・創元社)など。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：						

幼児教育学科

2年

科目名: 保育臨床心理学				担当教員氏名: 石津 孝治		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門科目	講義	選択	保育士資格指定科目(選択)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
子どもに見られる心の問題について理解するとともに、心理的援助についての理論ならびに技法の基礎と心理療法プロセスについて理解を深める。心理的援助については、精神分析やクライアント中心療法などの主要な心理療法各学派の理論と技法について概説し、事例検討を取り入れることによって心理療法プロセスについて学ぶ。					・心もかかわる病気 ・心理学的援助 ・事例検討	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 8. 9.		
A 知識・理解力		子どもにみられる、心もかかわる病気の知識を習得し、心理学的援助の理論と技法に関する基礎的概念を理解する				
C 論理的思考力		理論が援助プロセスでどのように生かされるかについてイメージを持てる				
G 倫理観		援助者として可能な内容と責任について理解する				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 100 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: %		
特記事項: アクティブラーニングの一環として、実際の臨床記述を用い、その事例の理解、援助課程の理解をレポートとしてまとめる時間をもつ。評価は2回実施するテストによりおこなう(それぞれ50%)。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 7回目、15回目。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: テストを採点し返却。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①子どもにみられる心の問題1(食行動の異常について学ぶ)				【事後】①の復習		
②子どもにみられる心の問題2(かん黙、排泄の障害について学ぶ)				【事後】②の復習		
③子どもにみられる心の問題3(チックや習癖について学ぶ)				【事後】③の復習		
④子どもにみられる心の問題4(被虐待児の心理学的特徴について学ぶ)				【事後】④の復習		
⑤発達障害の基本的特徴について学ぶ				【事後】⑤の復習		
⑥発達障害の関係発達について学ぶ				【事前】①から⑥の復習		
⑦前半の授業内容のまとめ。						
⑧来談者中心療法の理論と技法に関する知識を習得する。				【事後】⑧の復習		
⑨来談者中心療法が重視する、共感、受容の本質について焦点を当て、事例を用いて理解を深める。				【事後】⑨の復習		
⑩精神分析1(精神分析的な人格論、発達論に関する知識を習得する)				【事後】⑩の復習		
⑪精神分析2(精神分析の技法論についての知識を習得する。)				【事後】⑪の復習		
⑫事例検討1(心理治療例を素材とし、臨床心理学的援助の基本的なプロセスについて学ぶ)				【事後】⑫の復習		
⑬事例検討2(子どもの遊戯療法実践例を素材とし、子どもの援助に必要な態度について学ぶ)				【事後】⑬の復習		
⑭事例検討3(児童福祉施設における心理治療例を素材とし、援助の在り方について学ぶ)				【事後】講義内容全体の復習		
⑮全授業内容のまとめ。						
使用テキスト:				その他参考文献など: 「DSM-5精神疾患の診断・統計マニュアル」高橋三郎監訳(医学書院)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

幼児教育学科

2年

科目名: 保育内容(健康Ⅱ)				担当教員氏名: 小川 耕平		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
幼児の健康・体力について現状の把握と、向上にむけての対応策について考える。 また、アクティブラーニングの一環として、学生だけで実際に幼児の健康・体力に 関する調査を実践する。						・運動生理学 ・遊び ・体験学習
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 4. 5. 7	
A 知識・理解力			健康づくりに必要な知識について理解する			
A 知識・理解力			幼児期の健康づくりについて理解する			
C 論理的思考力			人間の身体について生理学的に考える			
E 自己管理能力			自らの生活習慣について考え自己管理能力を身につける			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	30 %	発表:	30 %	実技試験: %
						その他: 40 %
特記事項:						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: レポート返却時にコメントシートを配布し個々の疑問について対応する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション(保育内容健康Ⅰの振り返り)				事後: 1年次の振り返り		
②幼児期の健康と体力の関係				事後: 健康と体力について理解する		
③幼児期の体力・運動能力について				事後: 運動能力測定の方法を理解する		
④子どもの体力・運動能力の現状と課題				事後: 幼児の体力についての現状把握する		
⑤幼児の健康・体力に関わる生活習慣				事後: 幼児期の生活習慣について理解する		
⑥幼児期運動指針について				事後: 幼児期運動について理解する		
⑦アクティブチャイルド60minについて				事後: 児童期の運動について理解する		
⑧中間評価とまとめ				事後: 幼児の健康・体力について理解する		
⑨運動遊びの必要性				事後: 幼児の運動遊びの体験		
⑩運動遊びにおけるリスクマネジメント				事後: 怪我のリスクについて理解する		
⑪健康カルタの制作				事後: 運動遊びのグッズを製作する		
⑫幼児の健康・体力測定について①				事後: 体力・運動能力テストの概要		
⑬幼児の健康・体力測定について②				事後: 体力・運動能力テストの準備		
⑭幼児の健康・体力測定の実施 集中講義				事後: 体力・運動能力テストの実践		
⑮幼児の健康・体力測定の実施 集中講義				事後: 体力・運動能力テストの実践		
使用テキスト: 必要に応じてプリント配布				その他参考文献など: ・保育内容「健康」(光生館) ・幼児期運動指針・アクティブチャイルド60min		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ※⑭⑮等は福短祭の企画として実施予定です。						

幼児教育学科

2年

科目名： 保育内容(人間関係)					担当教員 氏名： 高見 泰子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
1	2年次 後期	専門科目	演習	選択必修 5単位中 3単位以上	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
子どもたちにとっての本当の幸せな育ちと、その育ちに求められている援助のあり方について、5領域の1つである『人間関係』という視点から考える。「人とのかかわること」の探究と「人間関係を築く」ときの基本となる“自分”について見つめ直し、講義を通して自分なりの保育観を探る。					・人とのかかわりの発達 ・人的環境 ・保育観 ・保育者の役割と援助	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 7. 8. 9. 10		
E	自己管理能力	自分の人間関係のあり方を理解する。				
A	知識・理解力	「人とのかかわりの発達」を理解する。				
A	知識・理解力	人的環境である保育者の役割と援助を学ぶ。				
H	コミュニケーション力	子どもの生活と人とのかかわりについて理解する。				
C	論理的思考力	自分の保育観を意識して論じたり、他の人の保育観を聞いたりしながら、自分なりの新たな保育観を探っていく。				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 50 %		レポート： 30 %		発表： %	実技試験： %	その他： 20 %
特記事項： テストは、7回目(20%)、15回目(30%)とする。レポートを随時提出とする。 その他は、グループディスカッションでの貢献度、授業態度等に対して評価を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：○第7回、第15回にテストを行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：提出された試験やレポートにコメントを記載すると共に次の授業で振り返りを行う。						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
① 家庭生活における人とのかかわり						
② 0・1歳児における人とのかかわり						
③ 保育実習Ⅰを振り返って					【事前】未満児における人とのかかわりについてまとめておく	
④ 校外幼稚園 見学実習						
⑤ 校外幼稚園 見学実習						
⑥ 見学実習を振り返って					【事前】見学実習で学んだ3～5歳児の人とのかかわりについてまとめておく	
⑦ 教育実習Ⅱを振り返って					【事前】見学実習で学んだ3～5歳児の人とのかかわりについてまとめておく	
⑧ 人とのかかわりを育ちを見る視点						
⑨ 人とのかかわりが難しい子どもへの支援					【事前】実習における事例をまとめておく	
⑩ 人とのかかわりを育てる保育者の役割					【事前】実習における事例をまとめておく	
⑪ 人とのかかわりを育てる保育の実践Ⅰ					【事前】模擬授業の指導案を作成しておく	
⑫ 人とのかかわりを育てる保育の実践Ⅱ					【事前】模擬授業の指導案を作成しておく	
⑬ 地域における生活と人とのかかわり						
⑭ 領域「人間関係」をめぐる諸問題						
⑮ まとめ						
使用テキスト： ①文部科学省 2008 『幼稚園教育要領解説』〈フレーベル館〉 ②厚生労働省 2008 『保育所保育指針解説書』〈フレーベル館〉				その他参考文献など： 保育内容「人間関係」森上史朗 倉橋惣三選集		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 本科目は、アクティブラーニングの一環として、グループディスカッションを多く取り入れていきます。「人とのかかわる」仕事は大変ですが、やりがいもあります。人とのかかわりをしっかり意識して下さい。また授業内容だけでなく、様々な情報(本、新聞、テレビ、インターネット…)も敏感にキャッチしましょう。2年間の集大成として、保育者としての専門性をしっかり意識して下さい。 授業内容をきちんとノートし、配布資料は分類してファイリングしておいて下さい。						

幼児教育学科

2年

科目名： 保育内容(環境)				担当教員 氏名： 松本 謙一					
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考				
1	2年次 後期	専門科目	演習	選択必修 5単位中 3単位以上	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)				
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
環境を生かした保育の環境構成・プログラムの作成、自然体験活動を子どもになりきっての直接体験等を通して、環境を生かした保育のあり方について実習する。					環境構成 体験活動プログラム 援助				
授業科目の到達目標									
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 8. 9. 10					
B 専門的技術		環境を生かした保育プログラムの作成方法を身につける							
B 専門的技術		子どもの気持ちを理解し適切な援助を行うために、まず、子どもの気持ちになりきって活動に取り組むことができる							
F チームワーク・リーダーシップ		リーダー、サブリーダーなどの役割を理解し、チームに参画することができる							
C 論理的思考力		環境を生かした保育の意義について心理学的な側面から理解する							
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	50 %	実技試験:	%	その他:	%
特記事項: 12時間続き、2泊3日の立山青少年自然の家実習を1回実施する(10/13~10/15)。									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: ①レポート(含:出席)は、毎回。②立山青少年自然の家実習の中で、発表の機会を設ける。最後に実習の振り返りを行い、まとめのレポートを提出する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: レポート返却									
授 業 計 画				事前・事後の学習課題					
① 環境を生かした遊び紹介①									
② 環境を生かした遊びの個々のプログラム作り①				プログラム作り(個人)					
③ 環境を生かした遊びの個々のプログラム作り②									
④ 附属幼稚園の環境と遊びに学ぶ									
⑤ 自然環境と安全教育									
⑥ 環境を生かした遊び体験①素材探し									
⑦ 環境を生かした遊びのグループでのプログラム作り①				プログラム作り(グループ)					
⑧ 環境を生かした遊びのグループでのプログラム作り②									
⑨ 環境を生かした遊び体験②子どもたちとの交流									
⑩ 環境を生かした遊び体験③野外炊飯									
⑪ 環境を生かした遊びの準備①									
⑫ 環境を生かした遊びの準備②									
⑬ 環境を生かした遊びの実践①子どもたちとのアクティビティを通して学ぶ				プログラムの振り返り					
⑭ 環境を生かした遊びの実践②他のグループのアクティビティを見て学ぶ									
⑮ まとめと振り返り									
使用テキスト: なし				その他参考文献など: その都度紹介する					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 体験的に学べるシラバスを準備しました。ぜひ、履修して専門的な力をつけてください。④~⑮附属幼稚園経由立山青少年自然の家での実習となります(10/13~10/15)。									

幼児教育学科

2年

科目名: 保育内容(造形表現)				担当教員 氏名: 岡野 宏宣		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
1	2年次 前期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
<p>子どもが楽しめる様々な造形表現活動の課題に取り組む(グループ活動もあり)。そのなかで、課題の趣旨を理解して、自ら感じ・考え・表現し、時にはグループで協力して課題に取り組むを態度を培う。また、自らが保育士・幼稚園教諭として当該活動を子ども達と行なうことを想定して、各課題の後に学びをふり返り、整理・記録を行なう。</p>					<p>・子どもの造形表現活動 ・個別学習とグループ学習 ・学びのまとめ(造形表現活動の意義や内容、子どもへの援助・留意点などの整理・記録)</p>	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7. 8. 9. 10.		
A 知識・理解力		保育・教育の場における造形表現活動の意義や内容について理解することが出来る。				
B 専門的技術		保育・教育関係の教職員としての造形表現活動に関する技術を習得する。				
D 問題解決力		保育・教育関係の教職員として、子どもの造形表現行為に関する意義や内容、援助や留意点などに関してまとめ、整理して記録することができる。				
H コミュニケーション力		造形表現活動に取り組むなかで、自己・他者を理解し、コミュニケーションを育むことができる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	50 %	実技試験: %
						その他: %
特記事項:						
『レポート(50%)』は、各課題の学びをまとめて整理・記録したレポートである。『発表(50%)』は、課題作品・提出(課題によっては発表あり)・授業態度である。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:各課題(活動1~4回)のまとめの授業時間に学びを整理・記録したフォリオを作成して提出。その後にはフォリオの記入状況、課題作品・発表、授業態度と合わせて評価(点数化)していきます。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 活動ごとに記録へのコメントをつけて返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①ガイダンス (「保育内容(造形表現)」の概略や意義の理解。フォリオ表紙作成)						
②活動1.『モダンテクニック』(スクラッチ、パチック、ドリッピング、フロッターージュ、デカルコマニー)						
③活動2.『ペインティングローラーで表現する』						
④活動3.『モダンテクニック・ペインティング・ローラーで「私」の世界を表現する①』						
⑤活動3.『モダンテクニック・ペインティング・ローラーで「私」の世界を表現する②』						
⑥活動3.『モダンテクニック・ペインティング・ローラーで「私」の世界を表現する③』						
⑦活動3. 振返り・まとめ						
⑧活動3.『子どもと造形活動の関連性。保育士の視点』						
⑨活動4.『夏祭りを企画する』(課題説明・役割分担)						
⑩活動4.『夏祭りを企画する』(制作①)						
⑪活動4.『夏祭りを企画する』(制作②)						
⑫活動4.『夏祭りを企画する』(リハーサル)						
⑬活動4.『夏祭りを企画する』(保育園での実施)						
⑭活動4.『夏祭りを企画する』(振返り・まとめ)						
⑮レポートの整理、提出						
使用テキスト: 必要に応じて資料を提供します。				その他参考文献など: 随時紹介します。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業のために課題制作がある授業のため、毎回欠かさず出席してください。やむを得ない理由で課題の進行が遅れた場合は、自ら時間をつくり、各課題のまとめの時間までに遅れを取り戻してください。						

幼児教育学科

2年

科目名: 保育内容(言語表現)					担当教員 氏名: 藤井 徳子	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
1	2年次	前期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
子どもたちにとっての本当の幸せな育ちと、その育ちに求められている援助のあり方について、5領域の1つである『表現』という視点から考える。特に、様々な児童文化を通して育つ『言語表現』に焦点を当て、体験を通して児童文化の楽しさに触れると同時に、基本的な扱い方や作り方などの技術修得を目指す。						児童文化 児童文化財 わらべうた おはなし 絵本 人形劇
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (短短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 8. 9.	
A 知識・理解力		児童文化の意義や内容を理解する。				
B 専門的技術		言語表現教材の基本的な扱い方の技術を習得する。				
D 問題解決力		様々な児童文化を体験し、保育に生かす手だてを自分なりに考える。				
H コミュニケーション力		言語表現活動(教材)を通して相手(子ども)とのコミュニケーションを育む。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	%	実技試験: % その他: 50 %
特記事項: 自発的な授業外学習および積極的授業参加に基づいて成績評価を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 初回時に授業・レポートの進め方および評価方法を説明します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 提出レポートにコメントを記載して返却						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
① オリエンテーション					【事前】1年次「保育表現技術」「保育内容(言葉)」の振り返り	
② 子どもと言葉					【事後】②の復習	
③ わらべうた(1) 0~2歳のふれあいうた・あそびうた					【事後】③の復習	
④ わらべうた(2) 3~5歳のふれあいうた・あそびうた					【事後】④の復習	
⑤ 絵本(1) 絵本の選び方と紹介					【事後】⑤の復習	
⑥ 絵本(2) 絵本の読み方					【事後】⑥の復習	
⑦ 絵本(3) 絵本の読み聞かせ 演習					【事後】⑦の復習	
⑧ 子どもとお話の世界 <特別講義>					【事後】⑧の復習	
⑨ おはなし(1) 素話・人形劇					【事後】⑨の復習	
⑩ おはなし(2) おはなしの選び方・語り方					【事後】⑩の復習	
⑪ おはなし(3) おはなしの語り 演習					【事後】⑪の復習	
⑫ 児童文化 子どもと遊び(1)					【事後】⑫の復習	
⑬ 児童文化 子どもと遊び(2)					【事後】⑬の復習	
⑭ 言語表現教材を使った実践(1)					【事前】⑭の準備	
⑮ 言語表現教材を使った実践(2)					【事前】⑮の準備【事後】①~⑮の復習	
使用テキスト: 指定テキストはありませんが、授業の中で紹介する文献を積極的に読み込んでください。					その他参考文献など: ①松岡享子 著「こども・こころ・ことば」こぐま社 ②松岡享子 著「サンタクロースの部屋」こぐま社 ③松岡享子 著「子どもと本」岩波新書 ④松岡享子 著「えほんのせかいこどものせかい」日本エディタースクール出版部	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 保育現場で必要とされる言語表現活動について、理論と実践の両面から学びを深めます。授業外の時間を積極的に使って、自ら保育者としての引き出しを増やしてください。 授業内容をきちんとノートし、配布資料は分類してファイリングしておいて下さい。						

幼児教育学科

2年

科目名： 障害児保育Ⅱ				担当教員 氏名： 梅澤 功		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
本科目では、さまざまな障害の特質と障害のある子どもとのとらえ方及び支援方法について学びます。グループワークや発表、支援計画作成の演習を通して、具体的な支援技能を身につけます。他の機関との連携、保護者との関係作りについても理解を深めます。					障害児 発達の気がかり 統合保育	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 9. 10		
A 知識・理解力	・様々な障害の特質と、障害のある子どもの実態のとらえ方、支援方法について理解することができる。					
B 専門的技術	・障害のある子どもに対し、実態把握とそれに基づく支援計画が作成できるようになる。					
D 問題解決力	・演習を通して、障害のある子どもに適した対応方法を自分なりに工夫して、具体的に考えることができるようになる。					
F チームワーク・リーダーシップ	・障害のある子どもへの支援方法についての演習を通して、お互いの考えを出しあったり、相手に配慮したりしながら意見をまとめる力を養う。					
G 倫理観	・障害のある子どもやその保護者への対応や他の機関との連携にあたって、保育士として身につけておくべき倫理を知り、身につける。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:35%	レポート: 30 %	発表: 10 %	実技試験: %	その他: 25 %		
特記事項:レポートは毎回授業で実施する。発表は、10点で1回。皆出席25点、1回休むごとに-5点。6回休むと単位認定しない。公欠は含まない。・テスト35点+レポート30点+発表10点+出席点25点=100点満点						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: ・テストは、概ね7回、14回の講義で実施する。 ・発表は「発表者」に指定されたときに行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション						
②障害ならびに障害児保育とは						
③障害児保育の仕組み						
④知的障害のある子どもの理解と支援						
⑤自閉症のある子どもの理解と支援						
⑥ADHD(注意欠陥多動性障害)のある子どもの理解と支援						
⑦学習障害(LD)のある子どもの理解と支援						
⑧視覚障害のある子どもの理解と支援						
⑨肢体不自由のある子どもの理解と支援						
⑩言語障害・聴覚障害のある子どもの理解と支援						
⑪統合保育について						
⑫家族への支援						
⑬アセスメントと個別の保育計画の作成						
⑭就学指導/学校教育との連携						
⑮まとめ						
使用テキスト:「よくわかる障害児保育」 ミネルバ書房				その他参考文献など: 講義の中で適宜紹介する。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):多くの保育所や幼稚園で、障害のある、またその疑いのある子どもが保育を受けています。障害のある子どもを理解し、その支援技能を身につけることは、保育士にとって、欠かすことのできない要件です。グループワークにより、自分の意見をまとめ、ディスカッションを行います。保育者としてのコミュニケーション力を高めるためのワークも取り入れます。						

幼児教育学科

2年

科目名：社会的養護内容				担当教員氏名：山岸 親史					
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考				
1	2年次 後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修)				
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード				
子どもが社会的養護の元で、環境に適応していくためにはどのような援助が必要か。具体事例を通して、子どもや保護者への実際的な支援方法を学ぶ。養護児童や障害児童についての理解と社会自立を目指すための援助方法や保育者としてコミュニケーションやレポートのとり方について学ぶ。					技術、知識、教育、介入、自立、社会性				
授業科目の到達目標									
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 9. 10				
B 専門的技術			子どもの行動を洞察、分析し、共感的かかわりを通して心的負担の軽減を図る。						
D 問題解決力			事例を通して、課題解決の視点を持って問題解決アプローチの意識をを深める。						
E 自己管理能力			与えられたテーマを整理し、客観的な思考力を身につける。						
G 倫理観			自身が好ましい社会規範を持ち、福祉的視点を持った児童観を獲得する。						
H コミュニケーション力			他者の意見を聞き、自己の考えを表出し感情交流が円滑にできるようにする。						
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト：	%	レポート：	60 %	発表：	%	実技試験：	%	その他：	40 %
特記事項：									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：8講目、14講目									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：									
授 業 計 画					事前・事後の学習課題				
①オリエンテーション、児童養護施設の暮らし									
②乳児院・母子生活支援施設の暮らし									
③児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設の暮らし									
④知的障害(障害)児・自閉症児・盲ろう児施設の暮らし									
⑤重症心身障害(障害)児施設・肢体不自由児施設の暮らし									
⑥施設入所と日常生活支援									
⑦心理的・治療的援助とは									
⑧振り返り									
⑨家族支援について									
⑩地域との関係、機関連携ボランティア受け入れ									
⑪自立を支援していくには、日常生活能力を高めるには									
⑫子どもの最善の利益について									
⑬支援者の資質と福祉倫理、援助技術									
⑭振り返り									
⑮まとめ、これからの施設の役割と形態									
使用テキスト： 児童の福祉を支える[演習] 社会的養護内容 萌文書林				その他参考文献など：					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):グループ討議の形で事例検討を主として実施するので、意見集約や発表ができるようになることが目標 予習として、当該演習事例の「本講で学ぼう」に沿って学習しておく									

幼児教育学科

2年

科目名: 保育相談支援					担当教員 氏名: 江藤 裕子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
1	2年次 後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
保育所や福祉施設における保護者支援の意義を理解した上で、保護者支援の実際や具体的な支援のあり方を学ぶ。					<ul style="list-style-type: none"> ・保育指導 ・子どもの最善の利益 ・保護者支援の技術 ・保育ソーシャルワーク ・カンファレンス 	
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 8. 9	
A 知識・理解力		保育相談支援の意義と原則について理解する。				
A 知識・理解力		保護者支援の基本を理解する。				
B 専門的技術		保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。				
D 問題解決力		保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 100 %	発表: %	実技試験: %	その他: %		
特記事項: 毎回の授業の後半は具体的な相談事例シートと参考資料を配布する。それをもとに相談対応レポートを作成し、提出後に評価を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポート2回～15回の授業後半でレポートを仕上げ、総計14枚のレポート提出。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 毎回レポート提出時に解説助言。最終回に模範解答集を渡す。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【保育相談支援の意義】 保護者への支援のために～保護者支援の基礎						
②【保育相談支援の意義】 保育士ならではの子育て支援について				事後: レポートの不足部分を再考する		
③【保育相談支援の基本と実際】 保育所保育指針「保護者に対する支援」の理解				事後: レポートの不足部分を再考する		
④【保育相談支援の基本と実際】 発達援助の技術(子どもの発達に沿ったかかわり)				事後: レポートの不足部分を再考する		
⑤【保育相談支援の基本と実際】 発達援助の技術(保護者との関係づくり)				事後: レポートの不足部分を再考する		
⑥【保育相談支援の基本と実際】 生活援助の技術(子どもの目線で支える)				事後: レポートの不足部分を再考する		
⑦【保育相談支援の基本と実際】 生活援助の技術(保護者が子育て力を育むプロセスの共有)				事後: レポートの不足部分を再考する		
⑧【保育相談支援の基本と実際】 環境構成の技術(保育者ならではの保護者を支える工夫)				事後: レポートの不足部分を再考する		
⑨【保育相談支援の基本と実際】 環境構成の技術(家庭内のコミュニケーションを支える)				事後: レポートの不足部分を再考する		
⑩【保育相談支援の基本と実際】 遊びを展開する技術(子どもの遊びを理解する機会の提供)				事後: レポートの不足部分を再考する		
⑪【保育相談支援の基本と実際】 遊びを展開する技術(気づきを促し、養育力向上の支援)				事後: レポートの不足部分を再考する		
⑫【保育相談支援の基本と実際】 関係構築の技術(子どもの行動を理解するヒントの提供)				事後: レポートの不足部分を再考する		
⑬【保育相談支援の基礎と実際】 関係構築の技術(気づきを促し、養育力向上の支援)				事後: レポートの不足部分を再考する		
⑭【児童福祉施設における保育相談支援】 要保護児童およびその家庭に対する支援				事後: レポートの不足部分を再考する		
⑮【児童福祉施設における保育相談支援】 障害児施設、母子生活支援施設等における支援				事後: 模範解答集で再考する		
使用テキスト: (使用しない)				その他参考文献など: 『保護者支援スキルアップ講座 保育者の専門性を生かした保護者支援—保育相談支援(保育指導)の実例』 監修・編者 柏女霊峰 ひかりのくに		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 相談支援の技術をより確実に理解するために、事例検討を多く取り入れていきます。検討には図書館の資料を活用します。						

幼児教育学科

2年

科目名: 教育と社会				担当教員 氏名: 靄本 千種		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
1	2年次	前期	専門科目	講義	選択	幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
現代の日本社会において大きな意味を持つ「教育」という対象、特にその中でも幼児教育・保育につながるテーマに対して、社会とのかかわりを意識しながらアプローチを試みる。<常識>と考えていたものを問い返し、見直しながら学ぶ。						障がいを抱える人と教育、早期教育、ジェンダーと教育
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7.	
A 知識・理解力			各テーマに対する知識を理解し、学んだ知識をつなぎながら捉え直しつつ理解を深める。			
C 論理的思考力			現代社会における教育につながる事象を様々な視点から捉え直し、論理的に分析し、表現する。			
H コミュニケーション力			テーマに対する自分の考えをグループ内や全体に伝え表現するとともに他者の考えを理解し、自分の考えやあり方を明確にする。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	70 %	発表:	%	実技試験: %
						その他: 30 %
特記事項: 毎回授業時に、その日の学びについてのレポートを課す。そのレポートを提出後に評価を行う。上記の「その他:50%」の部分では、授業での取組・参加姿勢・態度を評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎回ミニレポートを課すと同時に第8回でまとめのレポートを課す。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: レポートは評価終了後返却し、その後の学び方の改善やさらに学びを深めるために活かすよう指導する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①障がいを抱える人と教育1(教育の社会的・制度的歴史)				【事後】①の復習とレポート作成		
②障がいを抱える人と教育2(障がいを抱える子どもや人々への教育)				【事後】②の復習とレポート作成		
③障がいを抱える人と教育3(障がいをもつ子どもが生きる園経営・学級経営)				【事後】③の復習とレポート作成		
④幼児教育の意味と変化1(子どもの育ちと社会のかかわり)				【事後】④の復習とレポート作成		
⑤幼児教育の意味と変化2(子どもをよりよく育てることと早期教育)				【事後】⑤の復習とレポート作成		
⑥ジェンダーと教育1(学校における身体とジェンダー)				【事後】⑥の復習とレポート作成		
⑦ジェンダーと教育2(ジェンダーと職業)				【事後】⑦の復習とレポート作成		
⑧「教育と社会」の学びの振り返りとまとめ				【事後】①~⑧の復習とレポート作成		
使用テキスト: 使用しない。				その他参考文献など: 「このままでいいのか 超早期教育」汐見稔幸 大月書店、「よくわかるジェンダー・スタディーズ」ミネルヴァ書房		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ■自分自身が幼稚園・保育所から高校まで受けてきた教育を振り返りつつ、現代社会での教育・幼児教育・保育などに関心を持って、主体的に授業に参加してほしい。 ■随時資料を配布し、資料をもとにレポートを課す。ファイルに綴り、毎回授業時に持参すること。						

幼児教育学科

2年

科目名：教育方法論				担当教員氏名：北澤 晃		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択		備考
1	2年次 前期	専門科目	講義	選択		幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
幼児理解をもとに、「保育計画」を立て、実践し、省察するという「保育実践サイクル」の重要性を理解し、その循環によって、「つくり、つくりかえ、つくる」という保育者としての実践の可能性を求めようとする心構えを持つことができる。						・4つの専門性 ・保育実践サイクルと「つくりかえ」 ・幼児理解 ・保育計画
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7.		
A 知識・理解力	保育者に求められる4つの専門性に基づいて幼児を保育する援助と方法を知る。					
C 論理的思考力	保育実践サイクルによって、幼児理解を深め実践をつくりかえる工夫を考える。					
D 問題解決力	保育を省察するための記録やそれに基づいた保育計画を作成する。					
H コミュニケーション力	自分の考えをグループ討議などで発表し合い、考えを深める。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 80 %	発表: 20 %	実技試験: %	その他: %		
特記事項: 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として、グループ討議とその成果物を重視する。具体的には、各回の授業を振り返りまとめた成果物(自身のつくりかえの過程)を中心に評価する。その評価にグループ討議での発表状況を加え、評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 各回の学びを整理・記録したファイルを作成し⑦の授業に提出。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 毎回の授業においてコメントする。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①4つの専門性と保育実践サイクル/保育記録/カンファレンス【序章・12章・13章】				【序章・12章・13章】の学びの整理		
②幼児理解と保育計画【1章・2章】				【1章・2章】の学びの整理		
③幼児の遊びと発達/保育者の援助と保護者対応【3章・4章】				【3章・4章】の学びの整理		
④遊びの発展と保育者の援助/協働する経験と保護者の援助【5章・6章】				【5章・6章】の学びの整理		
⑤幼児のトラブルと保育/連続性を踏まえた保育【7章・10章】				【7章・10章】の学びの整理		
⑥学習の振り返りによるグループ討議				グループ討議の整理とまとめ		
⑦自身の「つくりかえ」の過程の確認				【11章・終章】の学びの整理		
⑧家庭との連携と保育者の援助【11章】/学習のまとめと振り返り				学習のまとめと振り返りの整理		
使用テキスト: 小田豊・中坪史典『幼児理解からはじまる 保育・幼児教育方法』建帛社				その他参考文献など: 島田教明・辻井正『0歳からの教育』オクターブ		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 配布資料はファイル等して保管し、授業時に持参すること。事前・事後学習における成果物(レポート)は積極的に提出すること。						

幼児教育学科

2年

科目名：音楽Ⅲ				担当教員氏名：山本、國分、串田、荒木、西浦、黒田、里見、林、森田、水上					
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択		備考			
1	2年次 前期	専門科目	演習	必修		幼稚園教諭二種免許状科目(必修)			
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
合唱を通して個々の歌唱力を高め、創作表現として作曲法を学ぶ。ミュージカルにおいては台本、音楽、舞台作り、演技とさまざまな分野を研究し、幅広い表現力を身につける。						歌唱力 演技力 協調性			
授業科目の到達目標									
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 7. 9. 10				
A 知識・理解力		合唱、ミュージカルを作り上げるための音楽的知識を身につける。							
B 専門的技術		歌唱、ピアノ、演技、作曲等音楽的技術の向上を目指す。							
F チームワーク・リーダーシップ		他者との協調性を作り出し、各箇所における指導力を養う。							
H コミュニケーション力		一つの舞台を全員で作りに上げるために欠かすことのできないコミュニケーション力を養う。							
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト：	%	レポート：	%	発表：	50 %	実技試験：	30 %	その他：	20 %
特記事項：『その他20%』の部分では授業の出席・態度を評価する。									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：発表、テスト、実技試験は7回目と15回目に行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：評価を伝え、必要に応じて個別指導を行う。									
授 業 計 画									
①【荒木・國分・串田】創作ミュージカル説明			【ピアルルス】春休み課題						
②【荒木・國分】ミュージカル			【串田】						
	台本読み1	作詞・作曲1	台本作成1	童謡弾き歌い1					
③	台本読み2	作詞・作曲2	台本作成2	童謡弾き歌い2					
④	歌唱指導1	作曲3	台本作成3	童謡弾き歌い3					
⑤	歌唱指導2	作曲4	台本作成4	童謡弾き歌い4					
⑥	衣装・音合わせ1	作曲5	台本作成5	童謡弾き歌い5					
⑦	大小道具・音合わせ1	作曲6	台本作成6	中間(まとめ)					
⑧【荒木・串田】ミュージカル			【國分】創作ミュージカル						
	音合わせ1		作曲1	童謡弾き歌い6					
⑨	音合わせ		作曲2	童謡弾き歌い7					
⑩	演技、歌唱指導・演出1		作曲3	童謡弾き歌い8					
⑪	演技、歌唱指導・演出2		作曲4	童謡弾き歌い9					
⑫	演技、歌唱指導・演出3		作曲5	童謡弾き歌い10					
⑬	演技、歌唱指導・演出4		作曲6	童謡弾き歌い11					
⑭	演技、歌唱指導・演出5		作曲7	童謡弾き歌い12					
⑮	ミュージカル 発表		作曲8	前期末(まとめ)					
使用テキスト：・東京書籍 小林美実編「音楽リズム」・ドレミ出版 坂東貴余子編「子どもの歌ベストテン」				その他参考文献など：					
・受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：ミュージカルの授業では2月に開催される創作ミュージカルの基礎を学びます。音楽Ⅲはミュージカルの授業とピアノの実技を合わせて評価され、単位を取得できます。									

幼児教育学科

2年

科目名：音楽Ⅳ					担当教員氏名：山本、國分、串田、荒木、西浦、黒田、里見、林、森田、水上				
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択		備考			
1	2年次 後期	専門科目	演習	必修		幼稚園教諭二種免許状科目(必修)			
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード			
2月に開催される卒業記念発表会(創作ミュージカル)に向けて、音楽・演技・造形(舞台作り・衣装作り等)と幅広い表現力を身につける。						音楽総合力 結束力			
授業科目の到達目標									
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 7. 8. 9				
A 知識・理解力		ミュージカルを作り上げるための総合的な知識を身につける。							
B 専門的技術		ピアノの技術に加え、歌唱力、演技力の向上を目指す。							
F チームワーク・リーダーシップ		発表会に向けて、他者との協調性を作り出し、各箇所における結束力、指導力を養う。							
H コミュニケーション力		音楽作りに欠かすことの出来ないコミュニケーション力を身につける。							
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト：	%	レポート：	%	発表：	50 %	実技試験：	30 %	その他：	20 %
特記事項：「その他20%」の部分は授業における出席、態度を評価する。									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： ピアノ実技試験は7回目と15回目に行う。学内における発表は15回目に行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック： 評価を伝え、必要に応じて個別指導を行う。									
授 業 計 画									
【串田・國分・荒木】				【ピアノレッスン】					
① 創作ミュージカル配役・進行説明				童謡弾き歌い1					
② 舞台作り打ち合わせ・台本読み合わせ1				童謡弾き歌い2					
③ 大道具・小道具・衣装作成計画・台本読み合わせ2				童謡弾き歌い3					
④ 舞台作り・音合わせ1				童謡弾き歌い4					
⑤ 舞台作り・音合わせ2				童謡弾き歌い5					
⑥ 舞台作り・音合わせ3				童謡弾き歌い6					
⑦ 演技、歌唱指導・演出1				中間(まとめ)					
⑧ 演技、歌唱指導・演出2				童謡弾き歌い7					
⑨ 演技、歌唱指導・演出3				童謡弾き歌い8					
⑩ 演技、歌唱指導・演出4				童謡弾き歌い9					
⑪ 演技、歌唱指導・演出5				童謡弾き歌い10					
⑫ 演技、歌唱指導・演出6				童謡弾き歌い11					
⑬ 演技、歌唱指導・演出7				童謡弾き歌い12					
⑭ 演技、歌唱指導・演出8				童謡弾き歌い13					
⑮ ミュージカル 発表				後期末(まとめ)					
使用テキスト：「音楽リズム」「子どもの歌ベストテン」					その他参考文献など：				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：音楽Ⅳは授業(ミュージカル)とピアノの実技の評価を合わせて評価され、単位を取得できます。									

幼児教育学科

2 年

科目名: 幼児体育 I				担当教員 氏名: 小川 耕平					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考			
1	2年次	前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)			
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
冒険教育、体験学習を基本に、体を動かしながら心身の健康づくり、体力づくりのための運動を体験し、幼児に必要な動き作りについて指導できるように学習する。また、未就学児を対象としたボールを持ちた運動遊びの指導資格(キッズリーダーU-6)を取得する。						・冒険教育 ・体験学習 ・コミュニケーション能力			
授業科目の到達目標									
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (短編マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7. 10				
A 知識・理解力			体験学習に必要な知識について理解する						
B 専門的技術			現場で幼児に対する運動指導ができるよう手法を学ぶ						
F チームワーク・リーダーシップ			チームメイトと協力して実技を行う						
H コミュニケーション力			他者との信頼関係を築くための手法を学ぶ						
D 問題解決力			様々な状況に応じて各人が判断する能力を高める						
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	20 %	発表:	50 %	実技試験:	30 %	その他:	%
特記事項: 2コマ使用して、日本サッカー協会公認資格(キッズリーダーU-6)を取得します。									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎回の授業後に振り返りシートを記入する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: コメントシートを配布し個々の疑問について対応する。									
授 業 計 画				事前・事後の学習課題					
①コミュニケーションゲーム				事後: コミュニケーション方法を学ぶ					
②体験学習について				事後: 体験学習の必要性について理解する					
③幼児の運動特性と遊びの必要性について				事後: 運動遊びの必要性について理解する					
④体を使ったコミュニケーション体験				事後: 体験学習の実践と理解					
⑤運動(遊び)を用いた信頼関係構築体験				事後: 信頼関係について理解する					
⑥運動(遊び)を用いた課題解決体験				事後: グループでの課題解決方法を理解する					
⑦運動(遊び)を用いたピーク・エクスペリエンス(至高)体験				事後: グループの組織力を高める					
⑧中間評価とまとめ				事後: 中間振り返りの実施					
⑨幼児期に必要な基本的運動動作について				事後: 幼児に必要な基本運動動作を理解する					
⑩幼児運動遊びの指導(模擬授業)①				事前: 運動に関する指導案の作成					
⑪幼児運動遊びの指導(模擬授業)②				事前: 運動に関する指導案の作成					
⑫幼児運動遊びの指導(模擬授業)③				事前: 運動に関する指導案の作成					
⑬幼児運動遊びの指導(模擬授業)④				事前: 運動に関する指導案の作成					
⑭幼児の運動(遊び)の指導について(キッズリーダー U-6講習会)				事後: 資格を取得する					
⑮幼児の運動(遊び)の指導について(キッズリーダー U-6講習会)				事後: 資格を取得する					
使用テキスト: 必要に応じてプリント配布 ・テキストは使用ませんが、資格取得のための実費2,500円が必要になります。(テキスト代・資格認定料込)				その他参考文献など: 幼児の体育(大学教育出版)					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・アクセサリを外し、運動のできるシューズ(内履き・外履き)、スポーツウェアを必ず着用すること ・15回の演習の中でキッズリーダーU-6の資格を取得します。									

幼児教育学科					2年	
科目名： 幼児体育Ⅱ				担当教員 氏名： 澤 聡美		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
1	2年次 後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
幼児の自発的な運動遊びを展開するために、保育者として、幼児の運動や遊びにどのように関わり、援助すればよいのかを、実践を通して考える。幼児の発達に応じた援助の在り方について考える					五感(豊かな感性)、健康、運動遊び、人との関わり	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 3. 5. 6. 7. 8. 10		
B 専門的技術	自ら安全に運動を行う方法や幼児に対する運動の指導方法が習得できる。					
E 自己管理能力	自らの生活習慣、これまでの運動との関わりについて振り返り、自らの健康を管理できる力を身につける。					
F チームワーク・リーダーシップ	チームで役割を分担して活動し、チームに参画する力を身につける。					
H コミュニケーション力	運動を通して他者と関わり、他者の意見を聴く力、理解する力、コミュニケーションについて実践的に学ぶ。					
D 問題解決力	運動指導中に起こる問題について、考え、チームで解決方法を検討し、様々な解決方法を考え、実践できる。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 60 %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項:発表・その他では、チームで運動遊びを考え、発表することをチーム得点として評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎回、授業の終わりに気づき・学びシートを提出し、学びを蓄積していく。						
課題に対するフィードバック: 気づき・学びシートにコメントを書いて返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション				[事前]これまでの運動に対する自分の関わりについて振り返る [事後]運動指導の目標を決める		
②遊具を使用した複合的運動遊び1(外の遊具を使用して)				[事前]園庭にある鉄棒や遊具の遊び方について振り返る [事後]安全な遊び方、年齢に応じた遊び方の工夫についてまとめる		
③遊具を使用した複合的運動遊び2(外の遊具を使用して)				[事後]遊具の遊び方や安全性について、授業で行った実践を基に考えをまとめる		
④遊具を使用した複合的運動遊び3(外の遊具を使用して)				[事前]どのような鬼ごっこがあるのかを調べる [事後]鬼ごっこの指導方法について検討する。		
⑤スポーツの体験から遊び方を工夫する1				[事後]ビーチボールを題材にこれまでの経験から、ルール、道具について考える		
⑥スポーツの体験から遊び方を工夫する2				[事後]幼児にふさわしい遊びになるようにミニゲームを考える		
⑦表現遊び1(幼児を対象とした身体表現の創作)				[事前]動物を題材とした動き、表現、イメージをシートに記入する		
⑧表現遊び2(幼児を対象とした身体表現の創作)				[事前]表現のイメージを豊かにするための言葉を絵本から見つける		
⑨表現遊び2(幼児を対象とした身体表現の創作)				[事後]創作の発表後に、幼児への指導方法について検討する		
⑩伝承遊び(季節の遊び)1				[事前]季節の遊びにどんなものがあるか今までの経験を振り返る		
⑪伝承遊び(季節の遊び)2				[事後]伝承遊びと運動の関わりについて振り返る		
⑫発育発達と運動遊び1(幼児を対象とした運動の遊び場を創ろう)				[事前]実習中に幼稚園や保育園での子どもたちがどのような運動遊びをしていたのかを振り返る		
⑬発育発達と運動遊び2(幼児を対象とした運動の遊び場を創ろう)				[事後]ホールにあるもの、身近なものを使って、手軽に継続できる方法を考える		
⑭発育発達と運動遊び3(幼児を対象とした運動の遊び場を創ろう)				[事後]運動遊びをどのように幼児に伝えるのか、説明するのかを考える。		
⑮運動遊びの発表と振り返り				[事前]これまでの授業から幼児期の運動遊びに大切なことについて自分なりの考えをまとめる		
使用テキスト: 必要に応じて配布する				その他参考文献など: 杉原隆編著、新版幼児の体育(建帛社)。山地啓司編著、子どものこころからだを強くする(布村出版)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 運動にふさわしい服装で、装飾品は怪我につながるのではありませんこと。朝食を取ってから来ること。						

幼児教育学科

2 年

科目名: 保育実習指導 I					担当教員 氏名: 藤井、石津、山本 岡野、小川、靄本				
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考			
2	1年次 2年次	通年 前期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修)			
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
<p>保育実習は、『事前学習』『実習』『事後学習』という流れの中で行われる。2年次の教育実習指導 I では、保育実習 I-②に向けて福祉施設の実習の意義、実習計画の立て方を学び深めていく。また、保育実習 I-①での反省を踏まえ、実習に対する心構えや実習計画の立て方等の再確認を行う。事後学習として、実習報告書の作成を通して、実習の成果をまとめ、各自の課題を整理していく。</p>						<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の意義 ・実習計画 ・実習報告書 			
授業科目の到達目標									
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 4. 6. 9.				
A 知識・理解力			保育実習の意義や方法を理解する。						
E 自己管理能力			今までの保育実習の経験を通して、自己課題を確認する。						
E 自己管理能力			保育実習に必要な手続きを行う。						
D 問題解決力			保育実習の計画を立てる。						
C 論理的思考力			実習報告書を作成し、各自の課題を整理する。						
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	100 %
特記事項: 毎回の授業出席を原則とし、やむを得ず欠席した場合は課題を与える。 課題への取り組み、提出物(期限厳守)の内容等で総合的に評価を行う。									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:									
授 業 計 画					事前・事後の学習課題				
① 福祉施設実習の意義・種類・特徴について									
② 福祉施設の子どもたちや利用者の理解									
③ 福祉施設における保育士の役割									
④ 外部講師による特別講義(福祉施設の生活)									
④ 福祉施設の子どもたちや利用者への接し方の実際(介護技術も含めて)									
⑤ 事前訪問 および 実習計画書の作成(保育実習 I-②)									
⑦ 実習報告書の作成									
⑧ 実習報告会									
使用テキスト: 使用しない。					その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。 プリントなどの資料を適宜配布する。				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目の単位を履修するためには、全ての授業に出席し課題に取り組むと共に、保育実習 I-①2単位、保育実習 I-②2単位全てを履修する必要があります。また、実習を行うにあたって実際に必要なことを学ぶ重要な授業であり、積極的な取り組みが求められます。上記時間外においても、実習内容等に関して予習・復習・準備などに積極的に取り組んで下さい。その他必要に応じて追加授業を行う場合があります。 本科目の履修状況によっては、保育実習 I-②の履修を認めないことがあります。									

幼児教育学科

2年

科目名: 保育実習指導Ⅱ					担当教員氏名: 藤井、石津、山本、小川 轟本	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
1	2年次	通年	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
<p>保育実習は、『事前学習』『実習』『事後学習』という流れの中で行われる。保育実習指導Ⅱでは、保育実習Ⅱに向けて保育所の実習の意義、実習計画の立て方や保育の方法などを学び深めていく。また、保育実習Ⅰ-①、保育実習Ⅰ-②での反省を踏まえ、実習に対する心構えや実習計画の立て方等の再確認を行う。事後学習として、実習報告書の作成を通して、実習の成果をまとめ、各自の課題を整理していく。</p>						<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の意義 ・実習計画 ・実習報告書
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 4. 6. 9.		
A 知識・理解力		保育実習の意義や目的を理解し、保育を総合的に学ぶ。				
E 自己管理能力		今までの保育実習の経験を通して、自己課題を確認する。				
E 自己管理能力		保育実習に必要な手続きを行う。				
D 問題解決力		保育の改善について計画立案、実践や事例を通して学ぶ。				
C 論理的思考力		実習報告書を作成し、各自の課題をや保育に対する認識を明確にする。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: %
その他: 100 %						
特記事項: 毎回の授業出席を原則とし、やむを得ず欠席した場合は課題を与える。 課題への取り組み、提出物(期限厳守)の内容等で総合的に評価を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 提出レポートや指導案にコメントを記載して返却						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
① 保育実習Ⅰ-①の振り返りと自己課題の整理				【事前】保育実習Ⅰ-①の復習		
② 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解				【事後】②の復習		
③ 子どもの保育と保護者支援				【事後】③の復習		
④ 保育士の専門性と職業倫理				【事後】④の復習		
⑤ 保育実践力の育成 (1)個々の子どもに応じたかかわり				【事後】⑤の復習		
⑥ 保育実践力の育成 (2)集団に応じたかかわり				【事後】⑥の復習		
⑦ 保育実践力の育成 (3)保育の表現技術を生かした保育実践				【事後】⑦の復習		
⑧ 事前訪問				【事後】②～⑦の復習		
⑨ 保育の全体計画に基づいた具体的な計画の立案				【事後】⑨の復習		
⑩ 実習指導案の作成 (1)部分実習				【事後】⑩の復習		
⑪ 実習指導案の作成 (2)全日実習				【事後】⑪の復習		
⑫ 実習の総括と自己評価				【事後】実習全体の復習		
⑬ 実習報告書の作成 (1)事例を通して				【事後】実習全体の復習		
⑭ 実習報告書の作成 (2)全体的考察				【事後】実習全体の復習		
⑮ 実習報告会				【事後】実習全体の復習		
使用テキスト:①東山明・名賀三希子(著) 2005『教育・保育実習実技ガイド』<ひかりのくに> ②片山紀子(編著) 2012『新版 保育実習・教育実習の設定保育』<朱鷺書房> ③民秋言(編著) 2014『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立』<萌文書林>				その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。 プリントなどの資料を適宜配布する。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目の単位を履修するためには、全ての授業に出席し課題に取り組むと共に、保育実習Ⅱ2単位を履修する必要があります。また、実習を行うにあたって実際に必要なことを学ぶ重要な授業であり、積極的な取り組みが求められます。上記時間外においても、実習内容等に関して予習・復習・準備などに積極的に取り組んで下さい。その他必要に応じて追加授業を行う場合があります。 本科目の履修状況によっては、保育実習Ⅱの履修を認めないことがあります。						

幼児教育学科

2年

科目名: 保育実習指導Ⅲ					担当教員氏名: 岡野 宏宣	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
1	2年次	通年	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
<p>保育実習は、『事前学習』『実習』『事後学習』という流れの中で行われる。保育実習指導Ⅲでは、保育実習Ⅲに向けて福祉施設の実習の意義、実習計画の立て方や保育・支援の方法などを学び深めていく。また、保育実習Ⅰ-①、保育実習Ⅰ-②での反省を踏まえ、実習に対する心構えや実習計画の立て方等の再確認を行う。事後学習として、実習報告書の作成を通して、実習の成果をまとめ、各自の課題を整理していく。</p>						<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の意義 ・実習計画 ・実習報告書
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 4. 6. 9.	
A 知識・理解力			保育実習の意義や目的を理解し、保育を総合的に学ぶ。			
E 自己管理能力			今までの保育実習の経験を通して、自己課題を確認する。			
E 自己管理能力			保育実習に必要な手続きを行う。			
D 問題解決力			保育の改善について計画立案、実践や事例を通して学ぶ。			
C 論理的思考力			実習報告書を作成し、各自の課題をや保育に対する認識を明確にする。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: %
その他: 100 %						
特記事項: 毎回の授業出席を原則とし、やむを得ず欠席した場合は課題を与える。 課題への取り組み、提出物(期限厳守)の内容等で総合的に評価を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
① 保育実習Ⅰ-①の振り返りと自己課題の整理						
② 子どもや利用者の最善の利益を考慮した保育の具体的理解						
③ 子どもや利用者の保育・支援と保護者支援						
④ 保育士の専門性と職業倫理						
⑤ 保育実践力の育成 (1)個々の子どもや利用者に応じたかかわり						
⑥ 保育実践力の育成 (2)集団に応じたかかわり						
⑦ 保育実践力の育成 (3)保育の表現技術を生かした保育実践						
⑧ 事前訪問						
⑨ 保育の全体計画に基づいた具体的な計画の立案						
⑩ 実習指導案の作成						
⑪ 支援計画の作成						
⑫ 実習の総括と自己評価						
⑬ 実習報告書の作成 (1)事例を通して						
⑭ 実習報告書の作成 (2)全体的考察						
⑮ 実習報告会						
使用テキスト: 使用しない。					その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。 プリントなどの資料を適宜配布する。	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目の単位を履修するためには、全ての授業に出席し課題に取り組むと共に、保育実習Ⅲ2単位を履修する必要があります。また、実習を行うにあたって実際に必要なことを学ぶ重要な授業であり、積極的な取り組みが求められます。上記時間外においても、実習内容等に関して予習・復習・準備などに積極的に取り組んで下さい。その他必要に応じて追加授業を行う場合があります。 本科目の履修状況によっては、保育実習Ⅲの履修を認めないことがあります。						

幼児教育学科

2年

科目名： 保育実習Ⅱ				担当教員 氏名： 石津、山本、小川、藤井 轟本		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	実習	選択	保育士資格指定科目(選択必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
保育実習Ⅰ-①での学びを踏まえた上で、保育所における10日間の実習を通して、そこで生活する乳幼児、特に3歳以上児の生活や遊びの姿を理解し、保育の方法や援助について具体的に学ぶ。						・3歳以上児の発達 ・3歳以上児の生活と遊び ・保育の方法 ・保育援助 ・協働 ・職業倫理
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			乳幼児、特に3歳以上児の発達、生活と遊び、人とのかかわり、集団としての育ち等について多面的に理解を深める。			
A 知識・理解力			具体的な保育の方法、保育援助について、保育の計画、実践、観察、記録および自己評価等について実際に取り組むことを通して、総合的に学び理解を深める。			
B 専門的技術						
C 論理的思考力						
D 問題解決力						
F チームワーク・リーダーシップ			保育所内、および、家庭や地域社会との協働・連携について理解を深めると共に、保育士の職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。			
G 倫理観						
H コミュニケーション力						
E 自己管理能力			保育士としての自己の課題を明確化する。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %	レポート： %	発表： %	実技試験： %	その他： 100 %		
特記事項： 実習先保育所の評価に担当教員の評価を合わせ、総合的に評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
※実習先保育所のプログラムに沿って実習を行う。						
使用テキスト：					その他参考文献など：	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 保育実習Ⅱは、保育士資格取得のため、保育実習Ⅲといずれかを選択して行われるものです。実習は子どもたちの生活の場で行われます。そのことを十分認識し、社会人としての自覚をもって実習に臨んで下さい。 尚、保育実習Ⅱへの参加は、保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱやその他保育士資格に必要な科目の履修状況、保育実習Ⅰ-①・保育実習Ⅰ-②の実習状況や評価、短大生活への取り組み等に基づいて総合的に判断されます。						

幼児教育学科

2年

科目名: 教育実習指導				担当教員 氏名: 藤井、石津、山本 岡野、小川、轟本	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
1	1年次 2年次	後期 後期	専門科目	演習	選択 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
教育実習は、『事前学習』『実習』『事後学習』という流れの中で行われる。2年次の教育実習指導では、教育実習Ⅰでの学びを踏まえ、事前学習として実習計画の立て方等の再確認を行う。事後学習として、実習報告書の作成を通して、実習の成果をまとめ、各自の課題を整理していく。					・実習計画 ・実習報告書
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 4. 6. 9.	
E 自己管理能力		教育実習Ⅰを通しての自己課題を確認する。			
E 自己管理能力		教育実習に必要な手続きを行う。			
D 問題解決力		教育実習の計画を立てる。			
C 論理的思考力		実習報告書を作成し、各自の課題を整理する。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 100 %	
特記事項: 毎回の授業出席を原則とし、やむを得ず欠席した場合は課題を与える。 課題への取り組み、提出物(期限厳守)の内容等で総合的に評価を行う。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 提出レポートや指導案にコメントを記載して返却					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
① 教育実習Ⅰの振り返りと自己課題の確認			【事前】教育実習Ⅰの復習		
② 事前訪問 および 実習計画書の作成			【事後】②の復習		
③ 実習指導案の作成①(部分実習を中心に)			【事後】③の復習		
④ 実習指導案の作成②(全日実習を中心に)			【事後】④の復習		
⑤ 実習準備			【事後】⑤の復習		
⑥ 教育実習Ⅱの振り返り			【事後】⑥の復習		
⑦ 実習報告書の作成			【事後】⑦の復習		
⑧ 実習報告会			【事後】教育実習全体の復習		
使用テキスト: ①横山洋子・中島千恵子(編著) 2010 『実践で語る幼稚園教諭への道』<大学図書出版> ②民秋言(編著) 2014 『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立』<萌文書林>			その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。 プリントなどの資料を適宜配布する。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目の単位を履修するためには、全ての授業に出席し課題に取り組むと共に、教育実習Ⅰ・Ⅱの全4単位を履修する必要があります。また、実習を行うにあたって実際に必要なことを学ぶ重要な授業であり、積極的な取り組みが求められます。上記時間外においても、実習内容等に関して予習・復習・準備などに積極的に取り組んで下さい。その他必要に応じて追加授業を行う場合があります。 本科目の履修状況によっては、教育実習Ⅱの履修を認めないことがあります。					

幼児教育学科

2年

科目名: 保育実践演習					担当教員氏名: 石津孝治	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
保育の心理学領域の演習。主に心理学的援助と子どもの発達、遊びに焦点を当て、受講生が自主的にテーマを設定し、原則として後期の「保育心理演習」とセットとし、1年かけて掘り下げていく。ガイダンスと、個別指導によるテーマ決定の後、各自が設定したテーマについて、個人またはグループで発表しディスカッションを行う。					・心理的援助 ・発達	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		設定したテーマについて深く理解できる。				
B 専門的技術		対人援助の基礎的技法が習得できる。				
C 論理的思考力		設定したテーマを追求し、その成果として総合演習集が作成できる。				
H コミュニケーション力		発表場面等で適切に伝えられる。また、ディスカッションできる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: %	発表: 50 %	実技試験: %	その他: 50 %		
特記事項: アクティブラーニングの一環として、各自のテーマに基づき調べた内容をまとめ、資料を作成し、発表する作業を行う。発表の機会ごとに毎回評価を行う。また、「その他」は取り組みの態度を評価。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 毎回の課題についてコメントを伝える。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①ガイダンス(授業の進め方、成績評価の方法など)						
②各自が取り組みたい内容、発表したい内容についてディスカッションと個別指導(1)						
③各自が取り組みたい内容、発表したい内容についてディスカッションと個別指導(2)				事後 必要な文献等読む		
④各自が取り組みたい内容、発表したい内容についてディスカッションと個別指導(3)				事後 必要な文献等読む		
⑤子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論1				事前 発表の準備		
⑥子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論2				事前 発表の準備		
⑦子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論3				事前 発表の準備		
⑧子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論4				事前 発表の準備		
⑨子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論5				事前 発表の準備		
⑩子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論6				事前 発表の準備		
⑪子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論7				事前 発表の準備		
⑫子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論8				事前 発表の準備		
⑬子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論9				事前 発表の準備		
⑭子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論10				事前 発表の準備		
⑮まとめと発表						
使用テキスト:				その他参考文献など: 学生の課題に応じて紹介する		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

幼児教育学科

2年

科目名: 保育実践演習				担当教員氏名: 山本 二郎		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択		備考
2	2年次 前期	専門科目	演習	必修		保育士資格指定科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
保育・教育現場における音楽教育に役立てるため、歌やピアノを中心とした楽器の演奏技術を高めながら、自らの感性を磨いていく。そしてソロやアンサンブルを含めたコンサートを企画し、学内外での実施を目指す。また音楽が子どもの成長にどのように影響するかを考察する。						音楽 感性 表現力
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		3. 4. 6. 7. 8. 10	
B 専門的技術		声楽やピアノを中心とした楽器の奏法を学び、演奏力を身につける。				
F チームワーク・リーダーシップ		アンサンブルやコンサートを通して協調性、積極性、責任感を培う。				
H コミュニケーション力		学内外のコンサートを通して子どもたちとの触れ合いを大切にする。				
E 自己管理能力		技術の修得、アンサンブルのために自己管理能力を身につける。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: %	発表: 50 %	実技試験: %	その他: 50 %		
特記事項: 「その他50%」の部分では授業における学習態度・状況を評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 中間発表は8回目、最終発表は15回目。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 評価を伝え、必要に応じて個別指導を行う。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①ガイダンス(授業内容の説明、個々の楽器種目の確認等)				コンサート用プログラムの作成		
②「音楽と子ども」について講義				講義のふりかえりとまとめ		
③2回のコンサートを企画し、内容の作成				演奏課題に取り組む		
④実技演習1(アンサンブルを中心に)				アンサンブル奏法の習得		
⑤実技演習2(アンサンブルを中心に)				アンサンブル奏法の習得		
⑥実技演習3(ソロを中心に)				基礎技術の習得		
⑦実技演習4(ソロを中心に)				基礎技術の習得		
⑧中間発表(Aプログラム)				発表の振り返りとまとめ		
⑨実技演習5(ピアノ演奏法を学ぶ)				ピアノ演奏技術の習得		
⑩実技演習6(ピアノ演奏法を学ぶ)				ピアノ演奏技術の習得		
⑪実技演習7(ピアノソロ・連弾を中心に)				ピアノ演奏技術の習得		
⑫実技演習8(アンサンブル中心に)				アンサンブル奏法の習得		
⑬実技演習9(アンサンブル中心に)				アンサンブル奏法の習得		
⑭実技演習10(Bプログラム全体)				発表の準備		
⑮最終発表(Bプログラム)				発表の振り返りとまとめ		
使用テキスト:				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

幼児教育学科

2年

科目名： 保育実践演習				担当教員 氏名： 鶴本 千種		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
困り感のある子どもなどの理解を深めること及びよりよいかかわりや支援の実践をテーマとして研究していく。各自が課題を設定しながら現場に出るとともに、学生の主体的な調査、観察、討議などに基づき演習を進める。					困り感、子どもの発達、子どもの行為、子どもの生活支援、子どもの遊び、障がい	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		5. 6. 7. 8. 9.		
A 知識・理解力		困り感のある子どもなどの発達の理解と子どもへのよりよいかかわり・支援について理解を深める。また、現場での子どもの観察・関わりを通し、子ども理解を深める。				
B 専門的技術		現場での子ども理解をもとに、子どもの実態に合った、かかわり・支援の在り方を学ぶ。				
C 論理的思考力		自分の演習テーマ・研究課題を設定し、現場での子どもとの関わりをもとに考察を深める。				
E 自己管理能力		保育・教育・福祉の現場ではたらくことができる「私」づくりを行う。				
H コミュニケーション力		発表場面等で自分の学びを適切に伝えられる。また、積極的にディスカッションに参加する。				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %	レポート： 30 %	発表： 20 %	実技試験： %	その他： 50 %		
特記事項：「レポート：30%」は、ゼミでの学び、文献や実習体験などからのレポートを作成都度に評価する。「発表：20%」は、集団的な学びの場での発表を評価する。「その他：50%」は、アクティブラーニングの一環として、現場での子どもたちの観察・ふれあい・実習への参加・事前の準備など態度を評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：レポートは、ゼミでの学び、文献や実習体験などをもとに作成する。発表は、集団的な学びの場での発表と終末に各自のテーマに基づく発表会を行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：レポート等は評価終了後返却し、発表はその都度評価を伝え、学びを深められるよう指導する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション、研究の進め方について(研究内容、研究方法、日程的な見通しなど)				各自の問題意識を書き出す		
②子どもと障がいの理解を深める1(障害児施設について学ぶ)				②での気付きを整理する。		
③子どもと障がいの理解を深める2(障害児の施設での観察・ふれあいⅠ)				③④での気付き・学びの振り返り		
④子どもと障がいの理解を深める3(障害児の施設での観察・ふれあいⅡ)				③④での気付き・学びの振り返り		
⑤子どもと障がいの理解を深める4(③④での学びの振り返り)				③④での気付き・学びのレポ作成		
⑥子どもと障がいの理解を深める5(障害児施設での部分実習案作成Ⅰ)				⑥の指導案作成準備		
⑦子どもと障がいの理解を深める6(障害児施設での部分実習案作成Ⅱ)				⑦の指導案作成		
⑧子どもと障がいの理解を深める7(障害児施設での部分実習Ⅰ)				⑧⑨での気付き・学びの振り返り		
⑨子どもと障がいの理解を深める8(障害児施設での部分実習Ⅱ)				⑧⑨での気付き・学びの振り返り		
⑩子どもと障がいの理解を深める9(⑧⑨での学びの振り返り・討議Ⅰ)				⑧⑨での気付き・学びのレポ作成		
⑪子どもと障がいの理解を深める10(⑧⑨での学びの振り返り・討議Ⅱ)				⑧⑨での気付き・学びのレポ作成		
⑫各自の研究テーマの設定のための研究調査方法を学ぶ①				⑫について復習と文献調査		
⑬各自の研究テーマの設定のための研究調査方法を学ぶ②				⑬について復習と文献調査		
⑭各自のテーマに応じた全体討議1(文献調査・実践などの発表と討議)				⑭について学びレポート作成		
⑮各自のテーマに応じた全体討議2(後期の研究に向けて)				⑮について学びレポート作成		
使用テキスト： 使用しない。適宜、資料を配布したり、紹介したりする。				その他参考文献など：DVD「ぼくは うみをみたくになりました」、書籍「ぼくは うみをみたくになりました」山下久仁明 ぶどう社、「発達障害のある子が楽しめる あんしんあそび」すばる舎		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：各自が問題意識をもち、探り、深めながら、積極的に演習に取り組みましょう。前期及び夏休み中に障がい児・者とかわるボランティアにも積極的に参加しましょう。						

幼児教育学科

2年

科目名： 保育実践演習				担当教員 氏名： 藤井 徳子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
幼児期の自然体験をテーマとし、実践的活動を通して考察を深める。アクティブラーニングの一環として、森のようちえんや自然体験活動に参加・企画・実践し、主体的に課題探求に取り組む。					・幼児期の自然体験 ・幼児の発達理解 ・幼児の遊び ・保育援助	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		幼児の内面理解・発達理解を深める。				
B 専門的技術		幼児期の自然体験の意義を理解し、自然保育の在り方を学ぶ				
C 論理的思考力		個々の演習テーマ・研究課題を設定し、現場での子どもとの関わりをもとに考察を深める				
D 問題解決力		幼児の発達に必要な経験や援助のあり方を自分なりに構築する。				
H コミュニケーション力		保育現場の方々、またゼミの仲間と協働して自然保育の実践に取り組んだり、個々の課題に対するディスカッションに積極的に参加したりする。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 30 %	発表: 10 %	実技試験: %	その他: 60 %		
特記事項: レポートは、作成都度に評価する。その他は、受講態度やグループ活動での貢献度等の総合評価とする。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第15回に実践を振り返る発表会を行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 提出レポートにコメントを記載して返却。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
① オリエンテーション(演習内容、方法、スケジュール等)				【事後】①の復習		
② 日本の森のようちえん 世界の森のようちえん				【事後】②の復習		
③ 森のようちえん①(体験)				【事後】③～⑤の復習		
④ 森のようちえん②(体験)						
⑤ 森のようちえん③(体験)						
⑥ 森のようちえん体験振り返り、有峰親子キャンプ計画				【事後】⑥の復習		
⑦ 有峰親子キャンプ①				【事後】⑦～⑬の復習		
⑧ 有峰親子キャンプ②						
⑨ 有峰親子キャンプ③						
⑩ 有峰親子キャンプ④						
⑪ 有峰親子キャンプ⑤						
⑫ 有峰親子キャンプ⑥						
⑬ 有峰親子キャンプ⑦				【事後】⑭の復習・発表準備		
⑭ 有峰親子キャンプ振り返り、発表準備						
⑮ 保育実践演習発表会				【事前】発表の準備		
使用テキスト: 特に使用しない。				その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。 プリントなどの資料を適宜配布する。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 森のようちえんでの実習実践することがメインとなります。						

幼児教育学科

2年

科目名: 保育実践演習				担当教員 氏名: 小川 耕平		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
人間の発育発達に応じた健康づくり、体力づくりについての知識について理解を深める。また、健康・体力づくりの知識・技術に関して前半で学んだことを生かしてアクティブラーニングの一環として健康・スポーツに関するイベントを企画運営する。						・発育発達 ・健康づくり、体力づくり ・生活習慣
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7. 8	
A 知識・理解力			健康づくり、体力づくりに必要な知識について理解する			
C 論理的思考力			各自のテーマに沿って情報を集め分析し報告する			
D 問題解決力			様々な状況に応じて各人が判断する能力を高める			
E 自己管理能力			自らの健康管理能力を高める			
F チームワーク・リーダーシップ			自らの役割を把握し、グループ活動に積極的に関わる			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %		レポート: 30 %		発表: 60 %		実技試験: %
						その他: 10 %
特記事項:						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:コメントシートを配布し個々の疑問について対応する。						
授 業 計 画				事前・事後の事前課題		
①オリエンテーション				[事前]スポーツ実践への意欲向上		
②健康・体力づくりの現状について(幼児~高齢者)				[事後]自分の健康・体力状態の把握		
③健康・体力づくりのための運動実践①(幼児)				[事後]幼児の運動遊びについて理解する		
④健康・体力づくりのための運動実践②(一般)				[事後]成人の運動実践について理解する		
⑤レクリエーションのための運動実践①				[事後]レクリエーションスポーツの実践		
⑥レクリエーションのための運動実践②				[事後]レクリエーションスポーツの実践		
⑦中間振り返りと後半イベントに向けて				[事後]イベント内容の立案		
⑧メインイベントの決定と企画				[事後]イベントの業務理解		
⑨健康・体力づくりに関するイベントの実施(集中講義)				[事前]イベントの実施に向けて		
⑩健康・体力づくりに関するイベントの実施(集中講義)				[事前]イベントの実施に向けて		
⑪健康・体力づくりに関するイベントの実施(集中講義)				[事前]イベントの実施に向けて		
⑫健康・体力づくりに関するイベントの実施(集中講義)				[事前]イベントの実施に向けて		
⑬健康・体力づくりに関するイベントの実施(集中講義)				[事前]イベントの実施に向けて		
⑭健康・体力づくりに関するイベントの実施(集中講義)				[事前]イベントの実施に向けて		
⑮活動報告会				[事後]後期イベントの実施に向けて		
使用テキスト: 必要に応じてプリント配布				その他参考文献など: ・クラスの絆が深まる楽しい活動集(学事出版) ・よく効くふれあいゲーム119(杏林書院)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・実践的な活動が主になります。 ・後期の身体表現演習(小川)を受講する学生のみ履修可能です。						

幼児教育学科

2年

科目名: 保育実践演習				担当教員氏名: 岡野 宏宣		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
様々な造形表現活動を経験し、自らが造形表現活動の場や機会を計画・準備・実践する。各活動後、子どもの造形表現活動の姿をふり返り、学んだ内容を整理・記録する。そのなかで、子どもの理解を深め、より良い活動内容や環境の設定、保育士・幼稚園教諭としての援助・留意点を考察する。						・子どもの造形表現活動 ・活動実践 ・造形表現行為についての整理・記録
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8. 9.	
A 知識・理解力			保育・教育の場や機会における造形表現活動の意義や内容について理解することが出来る。			
B 専門的技術			保育・教育の場や機会にかかわる者としての造形表現活動に関する技術を習得する。			
C 論理的思考力			保育・教育の場や機会にかかわる者として、子どもの造形表現活動に関する意義や内容、援助・留意点などについて理解し、実践した内容を整理・記録することができる。			
D 問題解決力			保育・教育における造形表現活動に関する意義や内容、援助・留意点などについて理解し、自ら活動計画を立て、実践することができる。			
H コミュニケーション力			造形表現活動に取り組むなかで、自己・他者・子どもを理解し、コミュニケーションを育むことができる。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	%	実技試験: %
						その他: 60 %
特記事項: 『レポート(40%)』は、各活動後の学びをまとめたレポートである。『その他(60%)』は、過程の取り組み・態度である。本科目はアクティブラーニングの一環として、保育所、幼稚園、その他の児童福祉施設で造学生主体の造形活動を行い、実践的な指導力を身につけている。 テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 以下の授業で、各自のテーマ取り組み・進行状況を確認し評価していきます。 ⑩『造形表現活動案完成』、⑫⑬⑭『造形表現活動実践』、⑮『造形表現活動実践の振り返り、まとめ』						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①ガイダンス(「保育実践演習」の概略の理解)						
②造形表現活動の事例検討 1				【事後】学んだことを整理・記録		
③造形表現活動の事例検討 2				【事後】学んだことを整理・記録		
④様々なテーマによる造形表現活動の研究 1						
⑤様々なテーマによる造形表現活動の研究 2						
⑥様々なテーマによる造形表現活動の研究 3				【事後】実践したい活動を検討する		
⑦造形表現活動案作成						
⑧活動シミュレーション				【事後】学んだことを整理・記録		
⑨活動シミュレーションの振り返り						
⑩活動案完成						
⑪活動実践の準備				【事後】実践までに物品を準備		
⑫造形表現活動実践 1(保育所、幼稚園、その他の児童福祉施設等での実践)				【事後】学んだことを整理・記録		
⑬造形表現活動実践 2(保育所、幼稚園、その他の児童福祉施設等での実践)				【事後】学んだことを整理・記録		
⑭造形表現活動実践 3(保育所、幼稚園、その他の児童福祉施設等での実践)				【事後】学んだことを整理・記録		
⑮造形表現活動実践の振り返り、まとめ						
使用テキスト: 必要に応じて資料を提供します。				その他参考文献など: 適時紹介します。 造形表現活動に関する文献を多く読むこと。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 様々な造形表現活動を授業を履修した学生と共に行い、子どもとかかわる造形表現活動の題材研究をしながら、計画・実践していきます。						

幼児教育学科

2年

科目名: 保育実践演習				担当教員氏名: 北澤 晃		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
資質・能力を統合化・総合化する“Art Thinking”の重要性を理解し、その思考を活性化する臨床美術プログラムの体験を通して、自らが造形表現活動の場や機会を計画する際に、“Art Thinking”を活性化させる視点を持つことができる。そのなかで、子ども理解をより深め、より良い活動内容や環境の設定に配慮できる保育士・幼稚園教諭としての資質・能力を高める。						・“Art Thinking” ・臨床美術 ・子ども理解
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8. 9		
A 知識・理解力	子どもの資質・能力を統合化・総合化する“Art Thinking”の重要性を理解する。					
B 専門的技術	“Art Thinking”のプロセスを保障する造形表現(臨床美術)活動に関する技術を習得する。					
C 論理的思考力	子どもが自ら“Art Thinking”によって、造形表現行為を立ち上げ、意味をつくり続けていることの成り立ちを記述する。					
D 問題解決力	保育・教育における造形表現活動に関する意義や内容、援助・留意点などについて理解し、自ら活動計画を立て、実践する。					
H コミュニケーション力	造形表現活動の場において立ち上がる意味に共感的に関わり、子どもとのコミュニケーションを図る態度を持つ。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 80 %	発表: 20 %	実技試験: %	その他: %		
特記事項: 『レポート(80%)』は、各活動後の学びをまとめたポートフォリオである。『発表(20%)』は授業における発表状況である。本科目はアクティブラーニングの一環として、地域コミュニティーで学生が主体的に造形活動を行い、実践的な指導力を身につける。 アートサポーター【初級】を取得する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 以下の授業で、各自のテーマへの取り組み・進行状況を確認し、段階的に評価します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 毎回の授業においてコメントする。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①ガイダンス(「保育実践演習」の概要の理解)と共通テーマの確認				【事後】共通テーマに関わる調査・検討		
②造形表現活動案の展開の考え方1				【事後】学んだことを整理・記録		
③造形表現活動案の展開の考え方2				【事後】学んだことを整理・記録		
④造形表現活動案の作成				【事後】造形活動計画案作成		
⑤造形表現活動案の検討				【事後】検討内容の計画案への反映		
⑥造形表現活動案に基づくロールプレイング1				【事後】ロールプレイングの振り返り		
⑦造形表現活動案に基づくロールプレイング2				【事後】ロールプレイングの振り返り		
⑧ロールプレイング場面の分析方法1				【事後】分析方法の整理・記録		
⑨ロールプレイング場面の分析方法2				【事後】分析方法の整理・記録		
⑩活動実践の準備・確認				【事後】活動実践の準備・確認		
⑪活動実践1				【事後】活動実践の記録		
⑫活動実践2				【事後】活動実践の記録		
⑬活動実践の振り返り1				【事後】活動実践の振り返り		
⑭活動実践の振り返り2				【事後】活動実践の振り返り		
⑮子どものアートプログラム研究(基礎)				【事後】まとめと今後の課題確認		
使用テキスト: 必要に応じて資料を提供します。				その他参考文献など: 適時紹介します。 造形表現活動に関する文献を多く読むこと。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 臨床美術の考え方を生かした造形表現活動を理解・実践することを通して、資質・能力を統合化・総合化する“Art Thinking”の重要性を理解する。						

幼児教育学科

2年

科目名： 幼児教育演習				担当教員 氏名： 霧本 千種		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門科目	演習	選択		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
困り感のある子どもなどの発達やその行為への理解を深めること及び子どもへのよりよいかかわり・支援を研究テーマとする。各自が課題を設定して、学生の主体的な調査、観察、討議などに基づき演習を進める。					困り感、子どもの発達、子どもの行為、子どもの生活支援、子どもの遊び、障がい	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		5. 6. 7. 8. 9.		
A	知識・理解力	困り感のある子どもなどの発達の理解と子どもへのよりよいかかわり・支援について理解を深める。また、現場での子どもの観察・関わりを通し、子ども理解を深める。				
B	専門的技術	現場での子ども理解をもとに、子どもの実態に合った、かかわり・支援の在り方を学ぶ。				
C	論理的思考力	自分の演習テーマ・研究課題を設定し、現場での子どもとの関わりをもとに考察を深める。				
E	自己管理能力	保育・教育・福祉の現場ではたらくことができる「私」づくりをめざす。				
H	コミュニケーション力	発表場面等で自分の学びを適切に伝えられる。また、積極的にディスカッションに参加する。				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	10 %	実技試験: %
						その他: 50 %
特記事項:「レポート:40%」は、文献や実習体験などからのレポートと前期を通して作成する論文から評価する。「発表:10%」は、集団的な学びの場での発表を評価する。「その他:50%」は、アクティブラーニングの一環として、現場での子どもたちの観察・ふれあい・実践への参加・事前の準備などの態度を評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:レポートは、ゼミでの学び、文献や実習体験などをもとに作成する。発表は、集団的な学びの場での発表と終末に各自のテーマに基づく発表会を行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:レポートは評価終了後、論文作成については毎時間、評価を伝え、学びを深めることができるよう指導する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション、研究の進め方について(研究内容、研究方法、日程的な見直しなど)				各自の研究計画作成		
②子どもの障害の支援を学ぶ1(障害児との実践の計画作成Ⅰ)				②の計画作成準備		
③子どもの障害の支援を学ぶ2(障害児との実践の計画作成Ⅱ)				③の計画作成・教材準備		
④子どもの障害の支援を学ぶ3(障害児との実践の計画作成Ⅲ)				③の計画作成・教材準備		
⑤子どもの障害の支援を学ぶ4(障害児との実践Ⅰ)				⑤⑥での学びの振り返り		
⑥子どもの障害の支援を学ぶ5(障害児との実践Ⅱ)				⑤⑥での学びの振り返り		
⑦子どもの障害の支援を学ぶ6(⑥⑦での学びの振り返り・討議Ⅰ)				⑤⑥での学びのレポート作成		
⑧子どもの障害の支援を学ぶ7(⑥⑦での学びの振り返り・討議Ⅱ)				⑤⑥での学びのレポート作成		
⑨各自のテーマにもとづく個別指導1				各自の研究レポート作成		
⑩各自のテーマにもとづく個別指導2				各自の研究レポート作成		
⑪研究のゼミ内中間発表				各自の研究レポート作成		
⑫各自のテーマに応じた個別指導3				各自の研究レポート作成		
⑬各自のテーマに応じた個別指導4				各自の研究レポート作成		
⑭各自のテーマに応じた個別指導・討議(発表に向けて)				各自の研究レポート作成		
⑮全体(またはゼミ内)発表				⑮の感想レポート作成		
使用テキスト： 使用しない。適宜、資料を配布したり、紹介したりする。				その他参考文献など:「こんなとき、どうする?発達障害にある子への支援 幼稚園・保育園」ミネルヴァ書房、「フォーラム21 困難をかかえた子どもを育てる」新読書社		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):各自が問題意識をもち、探り、深めながら、積極的に演習に取り組みましょう。前期及び夏休み中に障がい児・者とかかわるボランティア参加を推奨します。子どもの姿を問題意識に基づきながら捉えなおし、実践につながるよう研究を進めていきましょう。						

幼児教育学科

2年

科目名： 幼児教育演習				担当教員 氏名： 藤井 徳子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	演習	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
2年次前期科目「保育実践演習」の後半にあたるもので、幼児期の自然体験をテーマとし、実践的活動を通して考察を深める。アクティブラーニングの一環として、森のようちえんや自然体験活動に参加・企画・実践し、主体的に課題探求に取り組む。						・幼児期の自然体験 ・幼児の発達理解 ・幼児の遊び ・保育援助
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			幼児の内面理解・発達理解を深める。			
B 専門的技術			幼児期の自然体験の意義を理解し、自然保育の在り方を学ぶ			
C 論理的思考力			個々の演習テーマ・研究課題を設定し、現場での子どもとの関わりをもとに考察を深める			
D 問題解決力			幼児の発達に必要な経験や援助のあり方を自分なりに構築する。			
H コミュニケーション力			保育現場の方々、またゼミの仲間と協働して自然保育の実践に取り組んだり、個々の課題に対するディスカッションに積極的に参加したりする。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %	レポート： 30 %	発表： 10 %	実技試験： %	その他： 60 %		
特記事項： レポートは、作成都度に評価する。その他は、受講態度やグループ活動での貢献度等の総合評価とする。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 第15回に個々のレポートの発表会を行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック： 提出レポートにコメントを記載して返却						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
① オリエンテーション (今後の演習に対する心構えと見通し)				【事後】①の復習		
② 幼児の自然体験活動①参加						
③ 幼児の自然体験活動①参加				【事後】②～④の復習		
④ 幼児の自然体験活動①参加						
⑤ 幼児の自然体験活動振り返り・企画				【事後】⑤の復習		
⑥ 幼児の自然体験活動② 準備				【事後】⑥の復習		
⑦ 幼児の自然体験活動② 実践						
⑧ 幼児の自然体験活動② 実践				【事後】⑦～⑨の復習		
⑨ 幼児の自然体験活動② 実践						
⑩ 幼児の自然体験活動②の振り返り、③の準備				【事後】⑩の復習		
⑪ 幼児の自然体験活動③ 実践						
⑫ 幼児の自然体験活動③ 実践				【事後】⑪～⑬の復習		
⑬ 幼児の自然体験活動③ 実践						
⑭ 課題レポート・発表準備				【事後】⑭の復習		
⑮ 発表実施				【事前】課題レポート・発表準備		
使用テキスト： 特に使用しない。				その他参考文献など： 授業の中で適宜紹介する。 プリントなどの資料を適宜配布する。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ・前期の保育実践演習(藤井担当)の続きとなりますので前期からの継続受講が望ましいです。 ・土日の活動実践(幼児や親子向けの自然体験活動)がメインとなります。						

幼児教育学科

2年

科目名: 保育心理演習				担当教員氏名: 石津 孝治		
単位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	演習	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
2年次前期科目「保育実践演習」と原則セットで、1年を通して心理学領域の知識を深める。主に心理学的援助と子どもの発達に焦点を当て、受講生が自主的にテーマを設定し、掘り下げていく。前半は各自が設定したテーマに関する文献等について、個人またはグループで発表しディスカッションを行う。後半は各自のテーマに沿った個別指導となる。主体的な学びによる知識を深め、定着させるためにレポート集を作成する。						・心理的援助 ・発達
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			設定したテーマについて深く理解できる。			
B 専門的技術			対人援助の基礎的技法が習得できる。			
C 論理的思考力			設定したテーマを追求し、その成果として総合演習集が作成できる。			
H コミュニケーション力			発表場面等で適切に伝えられる。また、ディスカッションできる。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 70 %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: %		
特記事項: アクティブラーニングの一環として、各自のテーマに基づき調べた内容をまとめ、資料を作成し、発表する作業を行う。また、その成果を総合演習レポートとしてまとめる。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 毎回の課題についてコメントを伝える。						
授業計画				事前・事後の学習課題		
①子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論1				事前 発表準備		
②子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論2				事前 発表準備		
③子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論3				事前 発表準備		
④子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論4				事前 発表準備		
⑤子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論5				事前 発表準備		
⑥子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論6				事前 発表準備		
⑦各自のテーマに応じたレポート作成指導						
⑧各自のテーマに応じたレポート作成指導						
⑨各自のテーマに応じたレポート作成指導						
⑩各自のテーマに応じたレポート作成指導						
⑪各自のテーマに応じたレポート作成指導						
⑫各自のテーマに応じたレポート作成指導						
⑬各自のテーマに応じたレポート作成指導						
⑭発表準備						
⑮発表実施						
使用テキスト:				その他参考文献など: 学生の課題に応じて紹介する		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

幼児教育学科

2年

科目名：音楽表現演習				担当教員氏名：山本 二郎		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門科目	演習	選択		
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
保育・教育現場における音楽教育に役立てるため、歌やピアノを中心とした楽器の演奏技術を高めながら、自らの感性を磨いていく。そしてソロやアンサンブルを含めたコンサートを企画し、学内外での実施を目指す。また音楽が子供の成長にどのように影響するかを考察する。					音楽 感性 表現力	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		3. 4. 6. 7. 8. 10		
B 専門的技術		声楽やピアノを中心とした楽器の奏法を学び、演奏力を身につける。				
E 自己管理能力		技術の修得、アンサンブルのために自己管理能力を身につける。				
F チームワーク・リーダーシップ		アンサンブルやコンサートを通して協調性、積極性、責任感を培う。				
H コミュニケーション力		学内外におけるコンサートを通して子どもたちとの交流、触れ合いを大切にする。				
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %	レポート： %	発表： 50 %	実技試験： %	その他： 50 %		
特記事項：「その他50%」の部分では授業における学習態度・出席状況を評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：中間発表は8回目、最終発表は15回目。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①ガイダンス(授業内容説明、個々の楽器の確認等)				音楽会用プログラムの考案		
②2回の音楽会を企画し、内容・役割を作成				演奏課題に取り組む		
③実技演習1(ソロを中心に)				基礎技術の習得		
④実技演習2(ソロを中心に)				基礎技術の習得		
⑤実技演習3(ソロを中心に、アンサンブル)				基礎技術の習得		
⑥実技演習4(アンサンブルを中心に)				アンサンブル奏法の習得		
⑦実技演習5(アンサンブルを中心に)				アンサンブル奏法の習得		
⑧中間発表(Aプログラム)				発表の振り返りとまとめ		
⑨実技演習6(ピアノ演奏法を学ぶ)				ピアノ演奏技術の習得		
⑩実技演習7(ピアノ演奏法を学ぶ)				ピアノ演奏技術の習得		
⑪実技演習8(ピアノソロ・連弾・各楽器ソロ)				各楽器演奏法の習得		
⑫実技演習9(アンサンブルを中心に)				アンサンブル奏法の習得		
⑬実技演習10(アンサンブルを中心に)				アンサンブル奏法の習得		
⑭実技演習11(Bプログラムを中心に)				発表の準備		
⑮最終発表(Bプログラム)				発表の振り返りとまとめ		
使用テキスト：				その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：						

幼児教育学科

2年

科目名: 造形表現演習					担当教員氏名: 岡野 宏宣	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	演習	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
これまで学生自身が取り組んできた様々な造形表現活動の経験に基づいて、子どもの造形表現活動の姿を振り返り、学んだ内容を整理・記録・分析する。そのなかで、子どもの理解を深め、より良い活動内容や環境の設定、保育士・幼稚園教諭としての援助・留意点を考察する。						・子どもの造形表現活動 ・活動実践 ・造形表現行為についての整理・記録
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8. 9.	
A 知識・理解力			保育・教育の場や機会における造形表現活動の意義や内容について理解することができる。			
B 専門的技術			保育・教育の場や機会にかかわる者としての造形表現活動に関する技術を習得する。			
C 論理的思考力			保育・教育の場や機会にかかわる者として、子どもの造形表現活動に関する意義や内容、援助・留意点などについて理解し、実践した内容を整理・記録することができる。			
D 問題解決力			保育・教育における造形表現活動に関する意義や内容、援助・留意点などについて理解し、自ら活動計画を立て、実践することができる。			
H コミュニケーション力			造形表現活動に取り組むなかで、自己・他者・子どもを理解し、コミュニケーションを育むことができる。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	%	実技試験: %
						その他: 60 %
特記事項:						
『レポート(40%)』は、各活動後の学びをまとめたレポートである。『その他(60%)』は、過程の取り組み・態度である。本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループによる制作活動を取り入れ、保育所などでの子どもたちと造形活動を行うことを想定し授業を行っている。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 以下の授業で、各自のテーマ取組み・進行状況を確認し評価していきます。 ②③④『造形表現活動の事例発表、検討』、⑩『子どもの造形活動場面考察 完成』、⑭『研究レポートの完成』						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
①ガイダンス(「造形表現演習」の概略の理解)						
②造形表現活動の事例発表、検討 1					【事後】学んだことを整理・記録	
③造形表現活動の事例発表、検討 2					【事後】学んだことを整理・記録	
④造形表現活動の事例発表、検討 3					【事後】学んだことを整理・記録	
⑤造形表現活動の活動場面分析 1(場面分析に関する基礎理解)					【事後】分析したい場面の整理・記録	
⑥造形表現活動の活動場面分析 2(取り上げたい場面分析の整理・提出)					【事後】分析したい場面の修正	
⑦造形表現活動の活動場面分析 3(取り上げたい場面分析の記述完成)						
⑧造形表現活動の場面考察 1(場面考察に関する基礎理解)					【事後】取り上げた場面の考察・記述	
⑨造形表現活動の場面考察 2(取り上げた場面の考察・提出)					【事後】取り上げた場面の考察の修正	
⑩造形表現活動の場面考察 3(取り上げた場面考察の完成)						
⑪研究レポート作成 1(研究レポート作成に関する基礎理解)					【事後】研究レポートの作成	
⑫研究レポート作成 2(研究レポートの第一次提出、修正)					【事後】研究レポートの修正	
⑬研究レポート作成 3(研究レポートの第二次提出、修正)					【事後】研究レポートの修正	
⑭研究レポート完成・提出					【事後】研究発表のための準備	
⑮研究レポートの発表、振り返り						
使用テキスト: 必要に応じて資料を提供します。					その他参考文献など: 適時紹介します。 造形表現活動に関する文献を多く読むこと。	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

幼児教育学科

2年

科目名：造形表現演習				担当教員氏名：北澤 晃		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門科目	演習	選択		
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
造形表現活動の実践事例の記録・分析に基づいて、子どもの表現行為の意味を理解し、学んだ内容を整理・記録・分析する。そのなかで、子どもの理解を深め、保育/教育実践サイクルを回すための基礎的・基本的な保育士・幼稚園教諭としての視点と態度を身に付ける。					<ul style="list-style-type: none"> ・“Art Thinking” ・臨床美術 ・子ども理解 ・保育/教育実践サイクル 	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8. 9.	
A 知識・理解力		子どもの資質・能力を統合化・総合化する“Art Thinking”の重要性を理解する。				
B 専門的技術		保育/教育の実践サイクルを回すための子どもの表現行為の記録をとる技術を習得する。				
C 論理的思考力		保育/教育の実践サイクルを回すために、記録に基づいた考察をし、活動内容や援助・留意点などについての次への課題を明確にすることができる。				
D 問題解決力		保育・教育における造形表現活動に関する意義や内容、援助・留意点などについて理解し、自ら活動計画を立て、実践することができる。				
H コミュニケーション力		子どもの行為の考察によって理解した子どもの論理に対して共感的なコミュニケーションができる。				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %	レポート： 80 %	発表： 20 %	実技試験： %	その他： %		
特記事項：『レポート(80%)』は、各自のポートフォリオを踏まえた研究レポートである。成果物のみでなく、そこに至るまでの過程を重視する。『発表(20%)』は授業における発表状況である。アートサポーター【中級】【上級】を取得する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：以下の授業で、各自のテーマへの取り組み・進行状況を確認し、段階的に評価します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：毎回の授業においてコメントする。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①ガイダンス(「造形表現演習」の概要の理解)				【事後】「保育実践演習」の振り返りの確認		
②子どものアートプログラム研究1				【事後】プログラムの振り返り		
③子どものアートプログラム研究2				【事後】プログラムの振り返り		
④造形表現活動の事例の振り返り				【事後】実践事例の振り返りの整理		
⑤造形表現活動の活動場面分析 1(場面分析に関する基礎理解)				【事後】分析と考察		
⑥造形表現活動の活動場面分析 2(取り上げたい場面分析の考察)				【事後】分析と考察		
⑦造形表現活動の活動場面分析 3(取り上げたい場面分析の考察)				【事後】分析と考察		
⑧造形表現活動の場面の考察の発表と検討1				【事後】取り上げた場面の考察の修正		
⑨造形表現活動の場面の考察の発表と検討2				【事後】取り上げた場面の考察の修正		
⑩造形表現活動の場面考察 3(取り上げた場面考察の完成)				【事後】取り上げた場面の考察の完成		
⑪研究レポート作成 1(研究レポート作成に関する基礎理解)				【事後】研究レポートの作成		
⑫研究レポート作成 2(研究レポートの第一次提出、修正)				【事後】研究レポートの修正		
⑬研究レポート作成 3(研究レポートの第二次提出、修正)				【事後】研究レポートの修正		
⑭研究レポート完成・提出				【事後】研究発表のための準備		
⑮研究レポートの発表、振り返り				【事後】研究発表の総括		
使用テキスト： 必要に応じて資料を提供します。				その他参考文献など： 適時紹介します。 造形表現活動に関する文献を多く読むこと。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 臨床美術の考え方を生かした造形表現活動を理解・実践することを通して、資質・能力を統合化・総合化する“Art Thinking”の重要性を理解する。						

幼児教育学科

2年

科目名: 身体表現演習					担当教員 氏名: 小川 耕平	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	演習	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
前期の保育実践演習で学んだこと生かして、幼児向けの健康・体力づくりに必要な知識とスキルについて、実践を通じて理解する。アクティブラーニングの一環として、スポーツイベントに参加もしくは企画・運営する。						・健康づくり、体力づくり ・生涯スポーツ ・コミュニケーション能力
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7. 10	
A 知識・理解力			健康づくり、体力づくりに必要な知識について理解する			
B 専門的技術			生涯を通じてスポーツに親しむためのスキルを身につける			
D 問題解決力			様々な状況に応じて各人が判断する能力を高める			
H コミュニケーション力			仲間と協力してやり遂げるコミュニケーション能力の構築			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 60 %		
特記事項: 基本的に、保育園・幼稚園の現場や一般のスポーツ現場に出での授業になります。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:コメントシートを配布し個々の疑問について対応する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション・コミュニケーションゲーム				[事後]他者との関わりにちて学ぶ		
②スポーツボランティアの実践① スポーツ指導の体験(小学生)				[事後]自分の課題を発見する		
③スポーツボランティアの実践② スポーツ指導の体験(小学生)				[事後]自分の課題を発見する		
④スポーツボランティアの実践③ スポーツ指導の体験(小学生)				[事後]自分の課題を発見する		
⑤スポーツイベントの企画①(幼児向け運動教室:サポート)				[事後]自分の課題を発見する		
⑥スポーツイベントの実践①(幼児向け運動教室:サポート)				[事後]自分の課題を発見する		
⑦スポーツイベントの参加(富山マラソン:サポート参加)				[事後]イベントに参加して感じた事をまとめる		
⑧スポーツイベントの参加(富山マラソン:サポート参加)				[事後]イベントに参加して感じた事をまとめる		
⑨スポーツイベントの参加(富山マラソン:サポート参加)				[事後]イベントに参加して感じた事をまとめる		
⑩幼児期の運動遊びに関する知識の理解				[事後]指導案の立案		
⑪幼児の運動教室企画(指導案の作成)				[事後]指導案の提出		
⑫幼児の運動教室① 保育所・幼稚園での実践				[事後]レポートの提出		
⑬幼児の運動教室② 保育所・幼稚園での実践				[事後]レポートの提出		
⑭幼児の運動教室③ 保育所・幼稚園での実践				[事後]レポートの提出		
⑮まとめ				[事後]報告書の提出		
使用テキスト: 必要に応じてプリント配布				その他参考文献など: ・クラスの絆が深まる楽しい活動集(学事出版) ・よく効くふれあいゲーム119(杏林書院)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・集中講義で実践することがほとんどです。土日の活動参加が厳しい場合は単位認定不可になります。 ・前期の保育実践演習(小川担当)を受講した学生のみ履修出来ます。						

幼児教育学科

2年

科目名: 保育・教職実践演習(幼稚園)					担当教員 氏名: 藤井、石津、山本、轟本 岡野、小川、高見	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	演習	選択	幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
幼稚園教諭としての資質(心情・意欲・態度)の向上、子どもの育ち・学びを支援するための知識・技術の向上をめざし、現場実習後の各自の課題を克服することを目指とする。その際、グループ討論やグループでの模擬授業の実践を取り入れ、学びを深めていく。						・幼稚園教諭としての資質 ・子どもの育ち・学び ・支援 ・各自の課題
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 4. 5. 6. 9. 10	
C 論理的思考力			講義での学びをもとに実習時の取組みを振り返り、自己課題を探る。			
A 知識・理解力			幼稚園教諭としての資質や専門性に関する理解を深める。			
D 問題解決力			模擬授業指導案作成、実践、自己評価を通して、自己課題を克服する。			
F チームワーク・リーダーシップ			役割を分担しながら模擬授業を実践することを通して、他者と協同・協働し共に育ち合う。			
G 倫理観			幼稚園教諭としての職業倫理を確立する。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: % その他: 100 %
特記事項: 授業態度、履修カルテの記入状況、講義内容レポートの内容(期限厳守)、模擬授業への取り組み、グループ活動の貢献度等から総合的に判断する。毎回の授業出席を原則とし、やむを得ず欠席した場合は、課題を与える。本科目はアクティブラーニングの一環として、グループ毎の模擬授業及びディスカッションを行っている。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 提出レポートや指導案にコメントを記載して返却						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
① オリエンテーション・これまでの学修の振り返り					・履修カルテの作成	
② 【高見】教職の意義・教職倫理について(保育者の感性)					・②の復習	
③ 【高見】幼児理解・対人関係能力について(倉橋惣三に学ぶ)					・③の復習	
④ 【高見】幼児理解の事例研究1(自ら選ぶ活動の意義)					・④の復習	
⑤ 【高見】幼児理解の事例研究2 グループ討議					・⑤の復習	
⑥ 【高見】学級経営・保育内容指導力について(幼児の実態)					・⑥の復習	
⑦ 【高見】学級経営の事例研究1(保育のねらい)					・⑦の復習	
⑧ 【高見】学級経営の事例研究2 グループ討議					・講義内容レポート作成	
⑨ 模擬授業の計画立案					・模擬授業指導案の作成	
⑩ 模擬授業の教材研究及び指導案の作成に関して					・模擬授業指導案の作成	
⑪ グループ毎の模擬授業(1)					・模擬授業指導案の評価・反省	
⑫ グループ毎の模擬授業(2)					・模擬授業指導案の評価・反省	
⑬ グループ毎の模擬授業(3)					・模擬授業指導案の評価・反省	
⑭ グループ毎の模擬授業(4)					・模擬授業指導案の評価・反省	
⑮ 模擬授業全体を通しての講評・教員としての資質能力の確認・まとめ					・履修カルテの完成	
使用テキスト: 特に使用しない。					その他参考文献など: ・ワークで学ぶ 保育・教育職の実践演習 増田まゆみ・矢藤誠慈郎 編著(建帛社) ・保育・教職実践演習[保育士養成課程](光生館) ・倉橋惣三選集(学術出版会)	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 2年間の学びのまとめとして、幼稚園教諭になるための資質を確立するための大切な授業であり、積極的な取り組みが求められます。演習内容に関して事前・事後の学習課題を行わなければ授業に参加できなくなるので注意して下さい。本授業が開始されるまでに、2年次前期までの履修カルテを作成しておいて下さい。また、授業内容をきちんとノートし、配布資料は分類して履修カルテのファイルに保存しておいて下さい。						

幼児教育学科

2年

科目名：日本国憲法					担当教員 氏名：後藤 亜季	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	2年次 後期	総合科目	講義	選択	保育士資格指定科目(選択) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
無人島で誰ともかかわらずに生きない限り、私たちは必ず、いずれかの社会に属して生活することになる。社会にはルールが存在するが、その中でも特に重要となるルールが法律である。憲法はすべての法律のあり方を示し、また国家のあり方を定めた、特に重要な法である。講義では、憲法の中でも、特に幼児教育に必要な人権を中心に取り扱い、社会人として、教育者として必要な知識を身につけることを目的とする。					法律・人権・生活・教育・国民主権	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (短縮マトリックスで示される番号)		2. 5. 8. 10		
A 知識・理解力		社会生活上、幼児教育上必要な法的知識(人権に関する知識)の獲得と理解ができる				
C 論理的思考力		法的な考え方(リーガル・マインド)の習得ができる				
D 問題解決力		社会生活上生じる様々な法的問題を解決するために、獲得した法的知識やリーガル・マインドを使うことができる。				
E 自己管理能力		法的知識の活用により、社会生活上生じる様々な紛争を回避し、また適切な幼児教育に役立てることができる				
G 倫理観		法律知識の獲得により、人権に対する正しい理解を得、幼児教育に活かすことができる				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 90 %	レポート: 10 %	発表: %	実技試験: %	その他: %		
特記事項: 授業中のこちらから発言を求めた場合、これに対する発言は発言点となる。また、授業参加を求められた場合に、積極的に授業参加をしたときには、授業参加点となる。発言点や授業参加点は、テストで獲得した点数に加算され、合計点で成績評価を行うこととする。なお、授業計画は周知の上変更することがある。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 中間レポートを課す。また、第15回目の授業時に、テストを実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 採点して返却する。模範回答を配布する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①ガイダンス・近代的意味の憲法				【事前】憲法とはどのような法律か調べてくる		
②日本国憲法の特徴①(大日本帝国憲法との比較)				【事前】近代的意味の憲法について確認する		
③日本国憲法の特徴②(日本国憲法のしくみ)				【事前】日本国憲法を読んでくる		
④天皇制と国家のしくみ(統治)				【事前】天皇制・議会制民主主義について調べてくる		
⑤戦争放棄—憲法第9条				【事前】近年の自衛隊の海外での活動について調べてくる		
⑥人権①(人権規定の構成、10条、国籍についての問題)				【事前】人権とは何か調べてくる		
⑦人権②(13条 幸福追求権・自己決定権①)				【事前】自己決定権とは何か調べてくる		
⑧人権③(13条 自己決定権②—実際の事件を見てみる1)				【事前】自己決定権に関する問題にはどのようなものがあるか考えてくる		
⑨人権④(13条 自己決定権③—実際の事件を見てみる2)				【事前】第8回目講義で扱った以外にどのような事件があるか調べてみる		
⑩人権⑤(13条 自己決定権④—子どもの自己決定権)				【事前】子どもの自己決定権について考えてくる		
⑪人権⑥(14条 平等権①)				【事前】平等権について調べてくる		
⑫人権⑦(14条 平等権②—実際の事件を見てみる)				【事前】平等権に関する事件を調べてくる		
⑬人権⑧(19条 内心の自由、20条信教の自由、23条表現の自由)				【事前】第6回講義の内容の確認		
⑭人権⑨(そのほかの人権)				【事前】講義で取り扱ってこなかった人権規定について読んでくる		
⑮まとめ				【事前】第1回~14回講義内容の確認		
使用テキスト:				その他参考文献など: ・いちばんやさしい憲法入門 第4版(有斐閣アルマ)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): レジュメを配布し、レジュメに従って授業を行います(教科書は授業中に使いません)。法律を難しいと思う人も多いようです。また、特に憲法は、生活にどのようにかかわっているのか分かりにくいいため、興味を持ちにくい傾向もあるようです。しかし、生活上も教育上もとても大切です。慣れてしまえば面白い学問です。できるだけわかりやすく、楽しく授業を進めていきたいと思っています。皆さんの意欲的な参加を期待します。						

幼児教育学科

2年

科目名：スポーツ理論				担当教員氏名：小川 耕平		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	2年次 前期	総合科目	講義	必修	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
基本的な運動(走・跳・投)における身体の動きのメカニズムを生理学的、力学的、解剖学的観点から理解し、説明できるようにし、健康状態を維持していくための理論を学ぶ。					健康 運動 筋肉	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		6. 9		
A 知識・理解力		身体の動きのメカニズムについて理解できる				
B 専門的技術		人間の体(運動が生体に及ぼす効果について)理解できる				
C 論理的思考力		人体の仕組みについて理解し、健康・体力づくりについて理解できる				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 80 %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項:						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートは授業中に適宜実施します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: レポート返却時にコメントシートを配布し個々の疑問について対応する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション				【事後】目標の設定		
②体力の概念について				【事後】体力の種類について		
③人体の仕組み① 生命力				【事後】人体に関する数値暗記		
④人体の仕組み② 感覚				【事後】人体に関する数値暗記		
⑤人体の仕組み③ 器官				【事後】人体に関する数値暗記		
⑥各部の筋肉について(上半身・下半身・体幹部)				【事後】筋肉の名称について復習		
⑦体の活動について				【事後】活動メカニズムについて復習		
⑧中間評価とまとめ				【事後】中間振り返り		
⑨体力測定				【事後】自分の体力について		
⑩トレーニングとその効果①～スポーツと筋力～				【事後】力の出し方について理解する		
⑪トレーニングとその効果②～筋力トレーニングの仕組み・種類～				【事後】トレーニングの原則について復習		
⑫トレーニングとその効果③～持久力トレーニングの仕組み・種類～				【事後】トレーニングの原則について復習		
⑬トレーニングとその効果④～トレーニング管理・体重管理～				【事後】トレーニング管理について復習		
⑭トレーニングとその効果⑤～スポーツ障害～				【事後】スポーツ障害について復習		
⑮まとめ				【事後】全体のまとめ		
使用テキスト: 資料を用意します				その他参考文献など: ・運動とスポーツの生理学(市村出版) ・健康・運動の科学(講談社)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

幼児教育学科

2年

科目名： 職業選択と自己実現				担当教員 氏名： 島原郁代、清水朱実		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
1	2年次	前期	総合科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択)
授業科目の学習教育目標の概要： 今までの自分を振り返り、自己理解を深める中で、自分の自己実現とキャリアデザインに意識を向けていく。また、最近の就職事情について理解を深め、就職活動に必要なノウハウを身につける。						キーワード 自己理解・他者理解・自己表現・コミュニケーション・自己実現
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7. 8.		
A 知識・理解力		自己理解、他者理解ができる。				
D 問題解決力		自分の長所、短所を見つけ、目指す自分に向かって行動していくことができる。				
E 自己管理能力		自分を振り返り、キャリアデザインしていくことができる。				
H コミュニケーション力		言語・非言語両面から、伝えたい自分を表現していくことができる。				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 20 %	レポート： 30 %	発表： %	実技試験： %	その他： 50 %		
特記事項： その他の50%は、授業の課題、演習の取り組み姿勢を評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：レポートは適宜、テストは第14回目に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：適宜小テスト、レポートを行い、採点し返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①最近の就職事情と就職活動の理解				【事後】就職活動の実践		
②自己理解とキャリアデザイン				【事後】自己理解の実践		
③自己PR作成				【事後】自己PRの実践		
④志望動機作成				【事後】志望動機作成		
⑤「音読」文字色の音読テストから始める能力アップ				IT機器多様による脳の衰え→活性化/能活		
⑥「話し方」ボリュームのある声を作る腹式呼吸				舌年齢の衰え→声の出し方 訓練によるボリューム調節		
⑦履歴書作成①				【事後】履歴書作成		
⑧履歴書作成②				【事後】履歴書作成		
⑨「発声」CDを使った簡単トレーニング				かつ舌の悪さ→解消/耳を鍛える		
⑩「スピーチパフォーマンス」緊張の原因を探る(姿勢・視線・口調・癖)				スピーチする能力低下→スピーチ力をつける		
⑪「ロジカルスピーチ」文章の作り方 「敬語」の使い方				敬語苦手意識→社会人として最低限敬語力をつける、課題による文章作成能力をつける		
⑫「面接必勝法」面接室の扉のノックから実践①				姿勢・話し方の認識し、ノックから退室まで		
⑬「面接必勝法」面接室の扉のノックから実践②				実践し、不安を解消する		
⑭「自己理解と自己表現」の振り返り				【事後】自己表現の振り返り、実践		
⑮「職業選択と自己実現」まとめ				【事後】全体の復習をする		
使用テキスト： 必要に応じて資料を提供します。 就職ガイドブックを使用します。				その他参考文献など： 面接・自己PR・志望動機[完全版]坂本直文著		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 自己理解、自己表現に「これは正解」というものはありません。授業で人とかかわりながら、課題や演習により積極的に取り組んでください。「自己表現しながら、自己理解する」のは楽しいと思える授業を一緒につくりましょう。 記号言語(日常の言葉)から身体言語(body language)まで学び、人間関係の結びつきと話の効果を確認しましょう。						

幼児教育学科

2年

科目名：英語コミュニケーション				担当教員 氏名：高島 彬		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
1	2年次	前期	総合科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
幼児英語教育の現場で即戦力で使用できる英語力と教授法を体得する。						発音、チャンツ、歌、ゲーム、読み聞かせ、教材製作、
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7. 8.	
B 専門的技術			自己の英語をブラッシュアップし、子供たちに楽しく英語に触れてもらうための英語を教える技術を身につける。			
H コミュニケーション力			日常生活や教室内で実際に使用できる英語表現を、正しい発音で身につける。			
F チームワーク・リーダーシップ			英語表現を用いて、グループで協力して表現する力を身につける。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 60 %		レポート： %		発表： 20 %		実技試験： %
その他： 20 %						
特記事項：日頃のペアワークなどへの積極的な参加が求められる。(その他の部分が平常の活動点)						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：第8回、第14回。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：適宜採点し返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①授業概要、前年度の復習				[事後]前年度の復習のプリント		
②英語の発音1 (英語の歌、チャンツ、早口言葉)				[事後]早口言葉、歌、チャンツを練習		
③英語の発音2 (英語の歌、チャンツ、早口言葉)				[事後]早口言葉、歌、チャンツを練習		
④クラスルームイングリッシュ				[事後]教科書のクラスルームを音読		
⑤英語のゲーム教材作成1				[事後]ゲーム教材発表の準備		
⑥英語のゲーム教材作成2				[事後]ゲーム教材発表の準備		
⑦まとめ				[事前]これまでの範囲の復習		
⑧まとめと解説、読み聞かせプロジェクトの解説				[事後]テストの見直し		
⑨読み聞かせプロジェクト1 (発音練習)				[事後]教科書を音読		
⑩読み聞かせプロジェクト2 (翻訳1)				[事後]重要表現の復習		
⑪読み聞かせプロジェクト3 (翻訳2)				[事後]重要表現の復習		
⑫読み聞かせプロジェクト4 (ビジュアルエイド作成)				[事後]発表の準備		
⑬読み聞かせプロジェクト5 (リハーサル)				[事後]発表の準備		
⑭まとめ				[事前]これまでの範囲を復習		
⑮まとめと解説、発表会				[事前]発表の準備		
使用テキスト： The First Drop of English -Third Edition- Junko Chujo				その他参考文献など： 「保育の英会話」赤松直子・久富陽子(萌文書林)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 毎回の授業に必ず英和辞書を持参すること。(電子辞書使用可、携帯電話の辞書使用不可)						

幼児教育学科

2年

科目名：情報処理Ⅱ				担当教員氏名：中野 慎夫	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 後期	総合科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
近年の医療・福祉の現場において、電子カルテなど急速に情報化が進み、情報化スキルの必要性が高まっている。この科目では1年次に学習した基礎的な知識や活用能力を用いて、より高度なソフトウェアの利用・応用スキルを修得する。					インターネット、 表計算 データベース、 マルチメディア
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 8.	
A 知識・理解力	・Word、Ecel、PowerPointの統合利用を理解する。 ・より高度な情報作成能力を身に付け、活用能力を高める。 ・データベースやマルチメディア処理などの応用スキルを修得する。				
D 問題解決力					
C 論理的思考力					
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： %	レポート： %	発表： %	実技試験： 50 %	その他： 50 %	
特記事項： ・上記「その他」では、授業の態度、授業中の課題演習の提出状況などで評価する。 ・目標とする活用能力の習得のためには、授業外の予習・復習が不可欠であり、アクティブ・ラーニングとして学生が主体的に関わる意識を持つことを重視する。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：授業中後半に課題演習を行う。また授業期間の中間と最後に実技試験を行う。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：授業中に出す演習課題については提出時に学生の前でチェックする。また実技試験については採点をして返却する。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
① Wordによる文書作成の復習(年賀状の作成など)			【事前】Word教科書を読む 【事後】①の復習		
② Wordにおける書式設定			【事前】Word教科書を読む 【事後】②の復習		
③ Wordによる複雑な表作成			【事前】Word教科書を読む 【事後】③の復習		
④ WordとExcelの結合による文書作成			【事前】Word教科書を読む 【事後】④の復習		
⑤ Excelの基本操作の復習			【事前】Excel教科書を読む 【事後】⑤の復習		
⑥ Excellによる複雑な表作成			【事前】Excel教科書を読む 【事後】⑥の復習		
⑦ Excellによるグラフ作成			【事前】Excel教科書を読む 【事後】⑦の復習		
⑧ Excellによる高度なグラフ作成			【事前】Excel教科書を読む 【事後】⑧の復習		
⑨ Excellによるデータベースの作成と処理			【事前】Excel教科書を読む 【事後】⑨の復習		
⑩ PowerPointの復習とアニメーションの利用			【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑩の復習		
⑪ Excelを利用したプレゼン資料の作成			【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑪の復習		
⑫ イラスト、写真などを利用したプレゼン資料の作成			【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑫の復習		
⑬ イラスト、写真などを利用した高度なプレゼン資料の作成			【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑬の復習		
⑭ 自分で考えたプレゼン資料を作成する。			【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑭の復習		
⑮ Word、PowerPoint、Excelの応用操作を再確認する。			【事前】Word、PowerPoint、Excelの復習をする 【事後】⑮の復習		
使用テキスト：「できるWord2013」、「できるPowerPoint2013」、「できるExcel2013」(インプレスジャパン)				その他参考文献など： Officeソフトで作る文書ドリル全55題(noa出版) Office活用術(noa出版)	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：授業での演習時間が少ないので、必ず予習・復習を行うこと。					